NUEVA

ヌエバでチャンピオンを目指せ!!



日本ハンドボール協会検定球

日本リーグ唯一の公式試合球



日本ハンドボール協会検定球



国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球
32H300W　ヌエバ
●手縫い●天然皮革●３号球●32枚パネル

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球
32H200W　ヌエバ
●手縫い●天然皮革●２号球●32枚パネル

molten
株式会社 モルテン
東京本社　〒130-0003東京都墨田区横川5丁目5-7
大阪・名古屋・広島・福岡・四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

巻頭言

小学校新学習指導要領「ハンドボール」に思う



（財）日本ハンドボール協会常務理事　大西武三（競技本部長）

ハンドボールは、その特性から見て、子供を体育的見地から育てるのに相応しい特徴をもっている。長い経験からそのことは自信をもって言えることである。このハンドボールを小学生の指導要領に加えていただき、日本全国の小学生にやらせてみたいという悲願はハンドボール関係者なら誰もがもっていたことあろう。そのチャンスが訪れたのである。

日本協会として、指導要領への採用を願って行動を起こし始めたのは、４年前の１０月文部省へ今までのハンドボールの研究・実践資料を携えて訪問した時から始まる。その後、学校体育検討委員会が発足し、佐藤委員長を中心として全国展開の研究授業を行い、それを報告書にまとめて、平成９年７月３０日（水）に要望書とともに文部省に提出した。その後、小学生の指導者を対象とした全国研究会など精力的な活動が行われ、多くの方々から送り込まれる追い風を受けて「ハンドボール」の文字を指導要領に記しめることができた。その意味の大きさを考えたとき、大きな喜びとともに、これからのことを考えるとき、その任務の大きさをひしひしと感じる。

新指導要領は2001年から全面実施されるが、５、６年生の内容は、体つくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健である。ボール運動では（ア）バスケットボール、（イ）サッカー、（ウ）ソフトボール又はソフトバレーボールとその種目が記載されている。その内容の取り扱いとして「地域や学校の実態によってはウは扱わないことができることとし、ハンドボールなどその他のボール運動を加えて指導できる」としている。昨年１１月１９日に新聞発表されたものであるが、大手では毎日新聞だけが「内容の取り扱い」も載せ、「ハンドボールもできる」と報じた。従って一般には、ハンドボールが記載されていることを知らない人も多いと思われる。バスケットボールやサッカーが小学校では積極的に行われている種目である。ソフトボールやソフトバレーボールは実態によっては行わなくてよく、ハンドボールはやろうと思えばできる種目として位置づけられる。残念ながら完全な位置づけではなく、１０年後の改定に向かって大きな努力が要求されることを示している。問題は山積しているが、小学校へハンドボールの種は蒔かれたのである。水をやり、育てるのは我々ハンドボール人しかいない。このことを肝に銘じて皆さんとともに頑張っていきたい。

第12回世界女子ジュニア選手権に向け

全日本女子ジュニア監督　井上亮一
（夙川学院高校）



いよいよ、8月1日より中国で実施される、第12回世界女子ジュニア選手権が近づいてまいりました。私自身3回目の世界選手権（アラカージュー・アイボリーコースト）ということもあって気負いはありません。しかし、選手たちにとっては初めてのビッグイベントであるので、国際試合の経験不足を心配していますが、私の心配をよそに、今の若者の特色といえる状態が強化合宿の練習中や私生活の中にもでており、余り緊張をした様子もなく大きな大会があることがかえって良い刺激としてとらえているように見られ頼もしく感じております。今回のジュニアチームは約2年前から数回の選考会を実施し、何度かの強化合宿を行いながら、昨年大阪でのアジア選手権を経験してきましたが、強化合宿やアジア選手権などから感じたことは、前回の選手と比べ大型選手が多く、パワー面では勝っているものの個性という点では大きな開きがあるように思います。大きな大会ではこの個性が大切な局面で大きな力を出すことがあります。(良きにつれ悪きにつれ）今回のジュニアチームは大型チームにもかかわらず大きな失敗はないものの大爆発もないこじんまりまとまったチーム特徴を持っています。

第12回世界選手権での主力の選手の中でディフェンスの要になる主将の近藤智重選手（北国銀行、174cm）がチームとディフェンス全体を引っ張り、攻撃では大砲役になる岡田静香選手（大和銀行、172cm）・サウスポー中村由子選手（シャトレーゼ、172cm）と昨年のアジア選手権で大活躍した菅谷美奈選手（ブラザー工業、175cm）ら選手達にパワー溢れるプレイを望み、日本の特色である速攻には山本由香利選手（北国銀行）・加次木暁美選手（ブラザー工業）・高屋瞳選手（大崎電気）等の足に大きな期待を寄せている。また今回の大会では大阪アジア選手権で大活躍し一気にナショナル選手として駆け上ったGK浅井友可里（立山アルミ、178cm）にはこれからシドニーに向けての日本の守護神としての担い手になれるよう他の選手以上に特に頑張ってもらいたいと思っています。また、強化に関して世界選手権直前の国際試合の経験ということで、7月に予定していたイタリア遠征（テラモインテリアムカップ）が都合により中止となり、海外での国際試合が全くない中での世界選手権ということになりました。自信など全くありませんが何とか本大会では恥をかかないようにスタッフ・選手一丸となり、目標にしている前回（8位）以上の成績を上げれるように最後まで全力を尽くし努力をしていきたいと考えております。これからの国内合宿で高いディフェンスの強化とコンビネーションプレイを磨き、最終日まで乗り切っていける体力と精神力の強化を行い頑張りますので応援の程よろしくお願い申し上げます。

全日本女子ジュニア選手名簿（第12回女子ジュニア世界選手権大会:中国）

（平成11年8月1日～14日）

団長	山下　泉	やました いずみ	(財)日本協会
監督	井上　亮一	いのうえ りょういち	(財)日本協会強化委員
コーチ	池本　聡	いけもと ふさし	(財)日本協会強化委員
〃	平賀　達也	ひらが たつや	(財)日本協会強化委員
ドクター	阪田　武志	さかた たけし	産業医科大学病院
トレーナー	田辺　利香	たなべ りか	濱脇整形外科病院
通訳	鈴木　千織	すずき ちおり	エモックエンタープライズ

選手	氏名	ふりがな	所属先名	生年月日	身長	体重	出身高校	出身地
1	浅井　友可里	あさい ゆかり	立山アルミ	1979.10.04	178	68	四天王寺	大阪府
16	有間幸子	ありま さちこ	シャトレーゼ	1980.04.05	183	65	浦和実業	埼玉県
2	近藤智重	こんどう ちえ	北国銀行	1979.03.31	174	63	倉敷中央	岡山県
3	岡田静香	おかだ しずか	大和銀行	1979.06.28	172	63	初芝橋本	和歌山県
4	高屋　瞳	こうや ひとみ	大崎電気	1979.10.29	162	56	盛岡第二高	岩手県
5	上町史織	かみまち しおり	国士館大	1981.01.21	166	58	盛岡第二高	岩手県
6	菅谷美奈	すがや みな	ブラザー工業	1979.04.22	175	61	養老女商	岐阜県
7	小平智可	こだいら ちか	東京女子体育	1981.01.29	171	64	栃木女高	栃木県
8	中村由子	なかむら よしこ	シャトレーゼ	1980.08.03	172	62	添上高校	奈良県
9	加治木　暁美	かじき あけみ	ブラザー工業	1979.06.25	157	58	名短付高	愛知県
10	早船愛子	はやふね あいこ	筑波大学	1980.01.23	165	54	氷見高校	富山県
11	三浦　みどり	みうら みどり	立山アルミ	1979.08.14	166	56	聖和学園	宮城県
13	山本　由香梨	やまもと ゆかり	北国銀行	1980.03.28	162	52	福井商高	福井県
14	屋嘉洋乃	やか ひろの	オムロン	1980.04.26	162	58	那覇西高	沖縄県
17	安心院　祐子	あじみ ゆうこ	オムロン	1979.04.19	162	60	大分鶴崎	大分県
18	渡邊千壽	わたなべ ちひろ	北国銀行	1980.07.09	158	57	東海女子高	愛知県

第12回世界女子ジュニアハンドボール選手権スケジュール

日程	時間	試合番号	Aグループ	試合番号	Bグループ	試合番号	Cグループ	試合番号	Dグループ
8月1日(日)	12:00	1	オランダ対ロシア	4	ルーマニア対アイスランド	6	カナダ対トルコ	9	リトアニア対アンゴラ
	14:00	2	サモア対ブラジル	5	ノルウェー対コンゴ	7	スロバキア対ユーゴスラビア	10	デンマーク対台湾
	16:00					8	カザフスタン対韓国		
	19:30		開会式						
	21:00	3	日本対中国						
8月2日(月)	14:00	11	ブラジル対ロシア			16	ユーゴスラビア対トルコ		
	16:00	12	中国対オランダ	14	ノルウェー対ルーマニア	17	韓国対カナダ	19	デンマーク対リトアニア
	19:30	13	サモア対日本	15	アイスランド対ハンガリー	18	スロバキア対カザフスタン	20	アンゴラ対スペイン
8月3日(火)	14:00	21	中国対ブラジル			25	韓国対ユーゴスラビア		
	16:00	22	ロシア対サモア			26	トルコ対スロバキア		
	19:30	23	日本対オランダ	24	ハンガリー対コンゴ	27	カザフスタン対カナダ	28	スペイン対台湾
8月4日(水)	16:00		休日	29	ノルウェー対アイスランド		休日	31	デンマーク対アンゴラ
	19:30			30	ルーマニア対コンゴ			32	リトアニア対台湾
8月5日(木)	14:00	33	中国対サモア			37	韓国対スロバキア		
	16:00	34	ブラジル対オランダ			38	ユーゴスラビア対カナダ		
	19:30	35	ロシア対日本	36	ハンガリー対ノルウェー	39	トルコ対カザフスタン	40	スペイン対デンマーク
8月6日(金)	14:00	41	オランダ対サモア			46	カナダ対スロバキア		
	16:00	42	ブラジル対日本	44	アイスランド対コンゴ	47	ユーゴスラビア対カザフスタン	49	アンゴラ対台湾
	19:30	43	ロシア対中国	45	ルーマニア対ハンガリー	48	トルコ対韓国	50	リトアニア対スペイン
8月7日(土)					休日				
8月8日(日)	14:00	51	A1対B3			56	C1対D3		
	16:00	52	A3対B1	54	A6対B4	57	C3対D1	59	C6対D4
	19:30	53	A2対B2	55	A5対B5	58	C2対D2	60	C5対D5
8月9日(月)	14:00	61	A3対B3			66	C3対D3		
	16:00	62	A2対B1	64	A4対B5	67	C2対D1	69	C4対D5
	19:30	63	A1対B2	65	A5対B4	68	C1対D2	70	C5対D4
8月10日(火)	14:00	71	A2対B3			76	C2対D3		
	16:00	72	A3対B2	74	A6対B5	77	C3対D2	79	C6対D5
	19:30	73	A1対B1	75	A4対B4	78	C1対D1	80	C4対D4
8月11日(水)					休日				
8月12日(木)	14:00	81	AB9対CD9	84	AB10対CD10			87	AB11対CD11
	16:00	82	AB8対CD8	85	AB7対CD7	90	AB1対CD2	88	AB6対CD6
	19:30	83	AB3対CD3	86	AB4対CD4	91	AB2対CD1	89	AB5対CD5
8月13日(金)	14:00					92	90敗者対91敗者		
	16:00					93	90勝者対91勝者		
							閉会式		

詳報 第40回全日本実業団選手権大会

高松宮杯第40回全日本実業団選手権大会を終えて

全日本実業団
ハンドボール連盟理事長
近森克彦

【大会の概要】

高松宮杯全日本実業団選手権大会は、当連盟の最大の大会であり、且つリーグ戦ではなくトーナメント方式での試合形式であることが特徴です。リーグ戦ではコンディションの調整や相手チームに対して十分な対応が可能ですが、トーナメントでのそれは難しく、近年の様に各チームのレベルが接近してきた場合は優勝チームは他の大会とは異なることが多くあります。

ご存じの様に日本リーグ１、２部は実業団チームですし、日本代表選手も同様に各チームより構成されており、シーズン当初を飾るのにふさわしいビッグイベントです。また、新人、移籍選手の登竜門でもあります。更に来るべく日本リーグに向けて他チームの情報を得られる大会でもあります。ご承知の如く、企業とスポーツの関係が見直される中、実業団各チームは厳しい環境下で今後どれだけのチームが残り、社会人チームへの変換をしていくのか不透明な状況ですが、(財)日本ハンドボール協会傘下連盟として今大会がさらに継続できます様、努力して参りたく思います。

そういった意味で今大会は第40回を迎え、これまで大会開催にご尽力頂いた方々に感謝の意味を込めて“記念”の冠称を付して行いました。また、従来では、大会は男女別々に開催しておりましたが今大会は同一場所、会場で開催致しました。

【大会の運営・会場】

今回は大阪中央体育館を会場とし、準決勝まで２面を使用して行い、男女決勝戦のみ１面で行いました。

大会運営は大阪府ハンドボール協会の元、大阪実業団連盟、関西大学ハンドボール部の皆様のご協力を得てスムーズに運営されました。大都市での大会は、駐車場の確保も含めて難しい事項が多くありますが、それらも大過なく終了しました。

また、本来ならば徴収すべき入場料も大会経費を圧縮させるため、無料としました。

【男子の部総括】

末岡新監督率いる大同特殊鋼が準決勝までの勢いを生かすことができず、優勝は２年連続で湧永製薬が果たしました。

決勝戦は大同冨本のゲームメイクから朴が豪快に打ち込み先制したが、湧永は森山の巧みなプレーで対抗した。互いに序盤から譲らず白熱した展開となり、中盤に湧永はＧＫ坪根の好キーピングからの速攻でペースを握り一時は３点差をつけた。大同も朴のパワフルなプレーで追撃し10—8の２点差で折り返した。

後半に入ると双方の意地と意地のぶつかり合いで一進一退の熱戦となったが、残り10分から杉山の怪我のためポストに回った山口の活躍等で４点を連取し勝負を決めた。

優勝戦にふさわしい好試合であった。残念ながら大同は久方振りの優勝を逃したが、今後を十分に期待できる内容であった。

日本リーグの覇者の本田技研はストックランの怪我での不出場もあり準決勝で敗退、ＧＫ橋本の恐らく最後になるだろう日本での試合を飾れなかった。他のチームは大崎が主砲の首藤、魚住が抜けたが、よくまとまったチームの印象を与えた。中村から移籍したＧＫ林田、野村のトヨタ車体もさらに充実したチームに感じました。また、日新を破ったアラコの真面目な試合も好感をもてました。

新人はフルに出番はなかったものの湧永・下川、トヨタ車体・北出、三陽・永島が目についた。

【女子の部総括】

イズミが準決勝の対北國銀行、決勝戦大崎電気を共に１点差で破り２年連続優勝を飾る。北國、大崎両チームとも最後の最後での敗戦で、誠に白熱した試合であった。

決勝戦は前半20分まではお互い１点の取り合いで８—８。残り10分で試合が動きだし、エース宋を軸とし大崎が３点連続し２点リードで後半へ。後半も１点の取り合いで展開

●各賞

男子	最優秀監督	河原　隆雅	（湧永製薬）
	最優秀選手	坪根　敏宏	（湧永製薬）
	最優秀新人賞	下川　真良	（湧永製薬）
	ベストセブン		
	GK	坪根　敏宏	（湧永製薬）
	FP	B・ブラマニス	（湧永製薬）
		中山　剛	（湧永製薬）
		森山　透	（湧永製薬）
		朴　性立	（大同特殊鋼）
		藤井　孝志	（大同特殊鋼）
		茅場　清	（本田技研）
女子	最優秀監督	林　五卿	（イズミ）
	最優秀選手	青戸あかね	（イズミ）
	最優秀新人賞	鵜野亜矢子	（日立栃木）
	ベストセブン		
	GK	浅井友可里	（日立栃木）
	FP	青戸あかね	（イズミ）
		呉　成玉	（イズミ）
		藤澤千恵子	（イズミ）
		宋　知研	（大崎電気）
		江連　千絵	（大崎電気）
		田中美代子	（北國銀行）

し7分に同点、13分を過ぎてイズミがこの試合初めてリード。その後、ゲームメーカー青戸の大活躍で23―20とリードを保つ。大崎も残り10分過ぎても攻守を止めることなく戦い、1点差まで詰め寄ったが大崎最後の攻撃をイズミGK村上がカットインのシュートを止め、イズミが逃げ切った。お互いラフプレーもなく、終始、目の離せない優勝戦でした。

上記の様に北國銀行の充実振りと、立山アルミの躍進が目立ったがオムロンが結果を残せなかったのは残念である。

新人では日立鶴野が目立った程度で他は即戦力とまでいかなかったようです。

【審判】

韓国1ペアを招聘し、日本協会より6ペア、実連より1ペアで構成し問題なく終了。実業団大会は最高のレベルの大会であり、審判技術の要求度が高くその範囲では満たされたと思います。今回はA級審判審査をかねて一回戦男女と一部二回戦の試合を担当して頂いた。私見ですが、全般的には、無難だったとは感じます。しかし、やはり多少スピードについていけなく迷ってしまった方々も見受けられました。当連盟では選手生活を終えた人の審判養成に努めており、今後は、日本協会審判部の協力を得、レベルの高い審判の育成にも努力して参りたく思っております。

なお、大会前日東急ホテルにて記念パーティを催し、下記の永年の功績者の方々に表彰状と記念品を贈呈し感謝の念を表しましたことをお知らせします。

氏　名	
神田　清	前大阪府ハンドボール協会会長
幸田　良一	大阪府ハンドボール協会会長
東　嘉伸	大阪府ハンドボール協会副会長
幸田　泰之	大阪実業団ハンドボール連盟副会長
森　集	大阪実業団ハンドボール連盟副理事長
吉澤　力男	全日本実業団ハンドボール連盟監事
太田　耕治	愛知県ハンドボール協会会長
伊藤　和夫	愛知県ハンドボール協会参与
横地　宇吉	愛知県ハンドボール協会参与
浅野　克彦	元愛知県ハンドボール協会理事長
西村　亮治	愛知県ハンドボール協会理事長
鈴木　淳蔵	全日本実業団ハンドボール連盟顧問
禰津　行雄	全日本実業団ハンドボール連盟顧問(前副会長)
植村　繁	全日本実業団ハンドボール連盟顧問(前副会長)
山田　稔	前全日本実業団ハンドボール連盟顧問
田中　滋章	前全日本実業団ハンドボール連盟顧問
近藤　金博	全日本実業団ハンドボール連盟監事
村木　啓作	愛知県ハンドボール協会常務理事
西村　興八	前全日本実業団ハンドボール連盟監事
満渕　芳夫	前全日本実業団ハンドボール連盟常務理事

(敬称略)

《男子の部・決勝》

湧永製薬　21 (10―8 / 11―11) 19　大同特殊鋼

大同は4番冨本のゲームメイクから3番朴が高い打点から豪快に打ち込み先制するものの、湧永は2番森山の巧みなプレーで対抗し、互いに序盤から譲らず白熱した展開となる。中盤になると湧永はGK坪根の気迫のこもったキーピングから速攻を繰り出しペースを握り一時は3点差をつけるものの大同も9番林のパワフルなプレーで追撃し、結局10―8の2点差で前半を折り返した。

【湧永製薬】得点	氏名	番号	【大同特殊鋼】番号	氏名	得点
0	多田	1	1	荻田	0
2	森山	2	2	佐藤	0
1	下川	3	3	朴	10
3	田場	4	4	冨本	1
4	浜本	5	5	荻本	0
3	山口	6	7	市原	0
3	中山	7	8	藤井	1
4	ブラマニス	8	9	林	3
0	小藪	9	10	末岡	1
0	松谷	10	12	田原	0
0	加川	11	13	清水	0
0	坪根	12	14	柴田	3
0	小沢	13	15	南川	0
1	田中	14	17	山本	0
21	計	(仲田、植村)		計	19

後半に入ると双方の意地と意地のぶつかりあいとなり、取っては取られるという一進一退の熱戦となる。しかし、湧永は残り10分を切ってからポストマン6番山口の活躍などで一気に4点を連取する。大同も朴のこの日10得点目などで必死に追いすがるが、湧永8番ブラマニスに7mスローを決められ、万事休すとなった。実業団日本一を決めるにふさわしい素晴らしい一戦だった。

〈大阪ハンドボール協会　中川昌幸〉

《女子の部・決勝》

イズミ　28 (12―14 / 16―13) 27　大崎電気オーソル

イズミのスローでスタート。前半20分まではお互い1点の取り合いで、1点差以上の開きがなく8―8、前半残り10分よりゲームが動き出し、大崎のエース13番宋を軸とし、大崎が3点連続で取り、12―14、大崎の2点リードで終了。

【イズミ】得点	氏名	番号	【大崎電気オーソル】番号	氏名	得点
3	広瀬	2	2	川村	0
2	藤澤	3	4	對馬	1
9	青戸	4	5	佐々木	2
0	橋詰	5	6	江連	1
1	河本	6	7	鵜狩	2
6	林	7	8	佐久川	2
1	岩本	8	9	穂積	3
0	長木	9	10	金	5
5	呉	10	11	酒井	0
0	藤野	11	12	後藤	0
0	村上	12	13	宋	11
0	杉本	13	14	高橋	0
1	小島	14	16	金丸	0
0	高森	16	18	高屋	0
28	計	(鄭、林)		計	27

後半スタート7分で、イズミが前半終了時の2点を返し16―16で前半同様の1点の取り合いで展開される。後半13分、この試合初めてイズミが20―19と1点リードをする。その後16分過ぎから、ゲームメーカーでもあるイズミ4番青戸のカットインなどで、23―20と3点差のリードを保つ。大崎も残り10分を過ぎてからも攻守を止めることなく戦い、大崎9番穂積のカットイン、ロングで1点差まで詰め寄ったが、最後の攻撃（大崎）をイズミのGK12番村上がカットインを止め、1点差をイズミが守り切り、優勝した。

お互いラフプレーもなく終始目が離せない優勝戦であった。

〈大阪ハンドボール協会　太田　均〉

平成11・12年度日本ハンドボール協会委員会名簿

【総務委員会】

◎村松　誠［駒沢大学］
小山　浩［筑波大付属中学］
井田　一博［自衛隊体育学校］
志村　和子［能力開発センター］
飛田　武則［日本活字工業㈱］
川上　整司［アドバイザー］

【企画委員会】

◎川上　憲太［㈱間組］
山下　泉［ゼネラル興産㈱］
村松　誠［駒沢大学］
江成　元伸［昭和薬科大学］
喜井　美雄［日本ハンドボール協会］
脇若　正二［日新総合建材㈱］
木下　晴雄［立山アルミニウム工業㈱］

【広報委員会】

◎川上　憲太［㈱間組］
村松　誠［駒沢大学］
江成　元伸［昭和薬科大学］
喜井　美雄［日本ハンドボール協会］
田口　隆［本田技研工業㈱］
伊藤　宏幸［㈱日立栃木冷熱事業部］
山本　一［ゼネラル興産㈱］
武田　末男［セブンスポーツ］
早川　文司
渡邉　裕昭［大崎電気工業㈱］
西山　清［日新製鋼㈱］

【国際委員会】

◎喜井　美雄［日本ハンドボール協会］
井　薫［オムロン㈱］
田川　正明
［㈱エモックエンタープライズ］
松井　幸嗣［日本体育大学］
田口　隆［本田技研工業㈱］
東根　明人［順天堂大学］
星野　勝成
［MONTESA　HONDA　S.A.］
能城真喜子［日本ハンドボール協会］

【指導委員会中央委員会】

◎笹倉　清則［日本女子体育大学］
村松　誠［駒沢大学］
高橋　英次
大西　武三［筑波大学］
浅野　鉦世［武蔵工業大学］
小山　浩［筑波大付属中学］
芝　重春［自衛隊体育学校］
飯田　信行
［㈱シャコインターナショナル東京］
上林　正明［県立百合丘高校］
蓬郷　尚代
浜田　琴美［武蔵丘短期大学］
志村　和子［能力開発センター］

【学校体育ハンドボール検討委員会】

◎佐藤　靖［秋田大学］
大西　武三［筑波大学］
角　紘昭［私立東山小学校］
高田日呂美［都立駒場高校］
土井　秀和［大阪教育大学］
佐藤　勝弘［新潟大学］

【ビーチハンドボール委員会】

◎本間　誠章［長狭高校］
松原　一夫［千葉明徳短期大学］
佐藤　靖［秋田大学］
内記　英夫［県立木更津高校］
後藤　宜夫［県立船橋北高校］
江成　元伸［昭和薬科大学］
齋藤　実
大西　武三［筑波大学］

【小学生委員会】

高田　智史［函館市立高盛小学校］
遠藤　一男
栗本　士郎
中山　重一［全日本検数協会］
谷口　欣穂
信原　悦治［市立平井小学校］
平木　一令［香川町役場］
松井　光［大分市立長浜小学校］
大西　武三［筑波大学］
伊藤　和夫
小西　博喜［川崎医療福祉大学］
藤本　元
佐路　清隆［京田辺市教育委員会］

【普及アドバイザー委員】

伊藤　和夫
小西　博喜［川崎医療福祉大学］

【競技運営委員会】

◎江成　元伸［昭和薬科大学］
佐分　正典
兼子　真［玉川大学農学部］
花野　誠一［昭和薬科大学］

【インターネット委員会】

◎川上　憲太［㈱間組］
江成　元伸［昭和薬科大学］
村松　誠［駒沢大学］
喜井　美雄［日本ハンドボール協会］
出原　理
［アイドールエンジニアリング㈱］
兼子　真［玉川大学農学部］
田中　孝
［建設省大宮国道工事事務所］
沢田　猛［県立松任高校］
後藤恵理子［ソフトラボ㈱］
百瀬荘太郎［東京都第二建設事務所］
小山　浩［筑波大付属中学］
能城真喜子［日本ハンドボール協会］
渡邊　直美［日本ハンドボール協会］

【審判委員会】

〈審判部長〉
◎齋藤　実
〈審判部アドバイザー〉
狩野　幸介
〈審判審査指導委員会〉
加藤　雅之
藤本　昇
福田　英明［福岡歯科大学］
矢沢　達司［県立並木高校］
川島　克之［県立知立東高校］
島田　房二［都立山崎高校］
〈ブロック審判長〉
倉本　紘一［石狩南高校］
小友　正人［盛岡第二高校］

平成11・12年度日本ハンドボール協会委員会名簿

上久保重次 [伊奈学園総合高校]
中山　光広 [有礒高校]
板倉　孝雄 [横須賀高校]
北山　　隆 [滝川高校]
古富　　博 [下関西高校]
竹村　久晴 [松山商業高校]
森山　正治 [福岡高校]
〈連盟審判長〉
喜井　美雄 [日本ハンドボール協会]
島崎　政治 [豊島高校]
佐野　和夫
市瀬　公敬 [甲府東高校]
溝口　博一 [左京山中学]
〈競技規則研究委員会〉
◎清水　宣雄 [国際武道大学]
江成　元伸 [昭和薬科大学]
岸本　光夫 [大津市民病院病理科]
伊藤　徳之 [北海道教育大学釧路校]
南木　雅弘 [百合丘高校]
初鹿野　仁 [山梨高校]
〈国際委員会〉
◎後藤　　登
浜田　浩和 [晴海総合高校]
喜井　美雄 [日本ハンドボール協会]
南木　雅弘 [百合丘高校]
岸本　光夫 [大津市民病院病理科]
福島　亮一 [七城小学校]
〈日本リーグ審判委員会〉
◎藤本　　昇
江成　元伸 [昭和薬科大学]
喜井　美雄 [日本ハンドボール協会]
後藤　　登
坂入　禎之 [三陽商会東京営業所]
村林　正彰 [トヨタ車体㈱]
南雲千賀子 [大崎電気工業㈱]
〈総務委員会〉
◎花野　誠一 [昭和薬科大体育研究室]
兼田　佳博 [㈱アルファブレイン]
井田　一博 [自衛隊体育学校]
北村　善夫 [茨城県立中央高校]

【強化委員会】
◎野田　　清 [大同特殊鋼㈱]
山下　　泉 [ゼネラル興産㈱]
齋藤　　実
喜井　美雄 [日本ハンドボール協会]
津川　　昭 [湧永製薬㈱]
緒方　嗣雄 [㈱大和銀行]
福地　賢介 [ケイ・エフ・ケア㈱]
西山　逸成 [順天堂大学]
〈男子強化部会〉
津川　　昭 [湧永製薬㈱]
蒲生　晴明 [中部大学]
東根　明人 [順天堂大学]
田口　　隆 [本田技研工業㈱]
髙橋　精一 [桃山学院高校]
松井　幸嗣 [日本体育大学]
佐々木英明 [市立上中学]
福地　賢介 [ケイ・エフ・ケア㈱]
〈女子強化部会〉
緒方　嗣雄 [㈱大和銀行]
樫塚　正一 [武庫川女子大学]
伊藤　宏幸 [㈱日立栃木冷熱事業部]
水上　　一 [筑波大学]
佐々木英明 [市立上中学]
福地　賢介 [ケイ・エフ・ケア㈱]
井上　亮一 [夙川学院高校]
真田　　元 [戸塚中学校]

【機関誌編集委員会】
◎村松　　誠 [駒沢大学]
北村　善夫 [茨城県立中央高校]
佐藤　和孝 [東大付属高校]
南木　雅弘 [百合丘高校]
近久　紀人 [共栄火災（相）]
安田　　寛 [平塚学園高校]
小方　正実 [フォックスネット]

【日本リーグ委員会】
◎山下　　泉 [ゼネラル興産㈱]
野田　　清 [大同特殊鋼㈱]
川上　憲太 [㈱間組]
喜井　美雄 [日本ハンドボール協会]
石井　　勝 [本田技研工業㈱]
近森　克彦 [㈱三陽商会]
二口　昭夫 [㈱北國銀行]
市原　則之 [湧永製薬㈱]

※　◎は委員長です。

「JHLニュース」定期購読のご案内

全国ハンドボールファンの皆さん！ 待ちに待った日本リーグのシーズンは、6月25日開幕となりました。

今年も、世界のトッププレイヤーが続々登場して、国際レベルのエキサイティングな熱い戦いが展開されます。女子リーグも12チームまとめて、1回総当たりとし、上位4チームがプレーオフに出場することになり、日本リーグでは男女合わせてますます面白く、ダイナミックになってまいりました。

こんな面白い日本リーグの熱戦の結果や、個人記録、さらには次週の展望など話題豊富な「JHLニュース」見たい、読みたいと思いませんか？

[特　典] お申し込みいただいた方には特典として
①第24回日本ハンドボールリーグ総合プログラム
②第24回日本ハンドボールリーグオリジナルテレホンカード
をプレゼントいたします。
[発行予定] 1999年6月～1999年3月　計14回
[購読料] 期間購読 4200円（税込み）
[問い合わせ先] 日本ハンドボールリーグ運営委員会
☎03－3481－2361 小松、中嶋まで

がんばれハンドボール10万人会

経過報告

1999年5月末現在

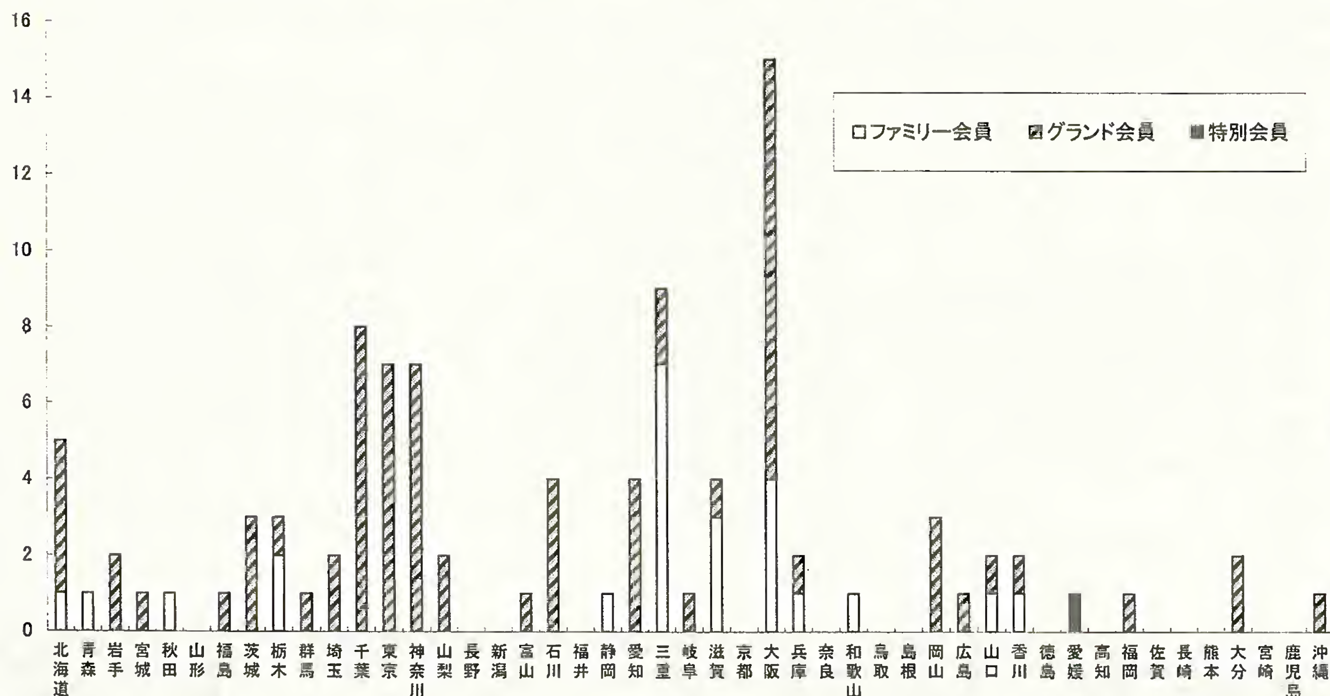
全員参加によるハンドボール文化を構築するという目的で平成11年度より発足いたしました「がんばれ10万人会」の経過についてご報告いたします。

この「がんばれ10万人会」は、全国理事会で成立の後、事務取り扱い責任者会議で説明がなされ、3月下旬には募集パンフレットを各都道府県協会、各全国連盟に配布いたしました。もっとも早い入会者はこの後すぐの3月下旬にありました。

4月に入ってからは旧賛助会員にも呼びかけ、また各加盟団体のパンフレット配布も進み徐々に入会申し込み書が日本協会当て送付されてきました。

5月末現在で、ファミリー会員24名、グランド会員74名、特別会員1名の状況です。現在のところ旧賛助会員から継続の方が多いようでグランド会員が多数を占めております。6月末からは日本リーグも始まり、徐々に会員が増えるものと予想しておりますが、各加盟団体ならびにハンドボールファンの方々には、ハンドボール発展のため一人でも多くの会員が増えますよう、新たなハンドボールファンをお誘いいただきたく、お願い申し上げます。

「がんばれハンドボール10万人会」会員数



平成11年度から
新会員登録制度
スタート！

がんばれ ハンドボール 10万人会



●HANDBALL　FAMILY

	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11回） 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料 ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

■登録増によるメリット

- メジャースポーツとして認知
- 登録金の増収

↓

- スポンサーがつく
- 全員参加意識の高揚

↓

財源確保

↓

各種事業への活用と充実
- ○小・中学校の普及
- ○ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
- ○ミニハンドボール競技の導入
- ○ジュニア層の重点強化
- ○各大会の補助金アップ
- ○国際大会の招致
- ○一貫指導体制の確立

団結しよう！
ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

ハンドボールフォーラム21開催要項

（日本協会役員・委員総合研修会）

機関誌６月号既報の日本協会役員、委員総合研修会「ハンドボールフォーラム21」を以下の要項で開催いたします。
一般の方々のご参加をお待ちいたします。

１．目的

21世紀に向かってのハンドボールの発展のため、(財)日本ハンドボール協会では平成11年度より全員参加でのハンドボール文化構築のための新会員制度をスタートさせた。これを受けて、(財)日本ハンドボール協会は一丸となり、21世紀に向かっての発展に寄与するために取り組み始めなければならない。このため、日本協会役員・委員が一堂に集まりハンドボール文化構築のための理念の共通理解を持ち、さらに議論を深めることは重要である。また、重要なテーマであるため、役員・委員に限らず広くハンドボール関係者にご参加いただき、更なるハンドボール文化の広がりを期することを目的とする。

２．主催

(財)日本ハンドボール協会

３．講師

基調講演
浅見俊雄氏 (財)サッカー協会理事)
パネルディスカッション
「スポーツ文化の構築のために」
コーディネーター
杉山茂氏
(スポーツプロデューサー)
パネラー
佐藤宣践氏
(柔道：ＪＯＣ選手強化本部長)
金子正子氏
(シンクロナイズドスイミング：協会強化部長)
河野一郎氏
(ラグビーフットボール：協会強化部長)
中川文一氏
(バスケットボール：女子ナショナルチーム監督)
野田清氏
(日本ハンドボール協会強化部長)

４．参加者

(財)日本ハンドボール協会　役員、各委員会委員
(財)日本ハンドボール協会　公認審判員、公認指導者
加盟団体役員
「がんばれ10万人会」会員
その他ハンドボール関係者

５．期日・会場

平成11年７月17日(土)：東京JR中央線大久保駅前「ホテル海洋」(案内図)
平成11年７月18日(日)：東京代々木オリンピック記念青少年総合センター
ただし、一般公開の研修会は17日のみとします。

６．参加費

一般参加者：2,000円（当日徴収）

７．参加申し込み

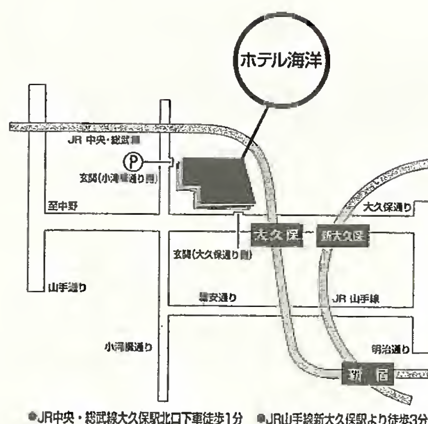
本要項下の申込書に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXにて、日本協会事務局まで申し込み下さい。
申し込み締め切り：７月７日
日本ハンドボール協会「ハンドボールフォーラム21」申し込み係
〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1
FAX：03(3481)2367

８．日程

17日
１:00～１:30　受付
１:30～１:40　専務理事挨拶
１:50～２:50　基調講演
３:00～５:00　パネルディスカッション
５:40～７:00　懇親会

９．その他

17日の総合研修会終了後、参加者による懇親会を会場にて開催いたします。一般参加者の方々にも参会いただき、情報交換等有意義な会としたいと思います。
懇親会会費：5,000円（当日徴収）



ハンドボールフォーラム21参加申込書

氏　名	
郵便番号	
住　所	
参加資格	日本協会役員、日本協会委員会委員、公認審判員、公認指導者 「がんばれ10万人会」会員、その他（　　　　　　）
懇親会 (会費制)	参加する　　　参加しない

表記研修会に参加します　　　平成11年７月　　日



行ってらっしゃい。



MORNING



NOON



NIGHT

お帰りなさい。

もっとあなたの街へ、そして暮らしのそばへ。

快適で温かみのある街づくりとは何だろう。毎日のお客様との触れ合いの中でサンクスは考え続けています。人に、街に、環境にグッドウエル。サンクスが目指しているのは、質の高い商品やホットなサービスを通して、ひとりひとりのお客様との、こころの触れ合いを大切にした笑顔あふれるフレンドリーなお店です。サンクスは快適な街づくりをあなたの街の暮らしの中で始めています。

●ダイオキシン対策として非塩化ビニール系ラップ包装を採用　●ペットボトル再生糸使用ユニフォームを全店に導入　●ユニセフチャリティ・サンクスカップ'99全日本市民駅伝サーキット主催　●圧縮天然ガス(CNG)使用低公害車の導入開始　●安心して住める街づくりを推進する防犯ステーションとして協力開始

株式会社サンクスアンドアソシエイツ

〒105-8539 東京都港区芝2丁目28番8号 芝2丁目ビル TEL.03-5445-3456(代)
サンクスについての情報は、URL／http://www.sunkus.co.jp

サンクスは日本ハンドボール協会を応援しています。

医科学委員会報告

バンコク・アジア大会にチームドクターとして帯同して

《男子チーム》

三重大学整形外科　加藤　公

今回、全日本男子チームのチームドクターとして帯同する機会を得たので、アジア大会でのメディカルサポートなどについて報告する。メディカルスタッフは、ドクター1名（整形外科医）、トレーナー1名（鍼灸・マッサージ出身）の2名で、女子チームも同様の構成であった。

◎コンディショニング

気温については当初の予想に反して、最高気温が25℃未満とかなり涼しい気候が続き、過ごしやすかった。このため、練習は体育館以外に選手村内の芝生の上でも行うことができた。各居室にエアコンとお湯のでるシャワーが設置されており、コンディショニングに役立った（シャワーは事前調査時にはお湯がでなかった）。水分摂取については、安全なミネラルウォーターが本部前に常備されており、飲み水のみならず、歯磨き時のうがいなどにも安心して自由に利用できた。食事については、食堂は24時間オープン、バイキングスタイルでいつでも自由に摂取できた。量的には十分な用意がされていたが、種類としては臭いの強いものや辛い味付けのものが多く、選択肢が豊富とは言えなかった。しかし、選手は自分なりに工夫して、バランス良い食事をとるよう心がけていた。

◎試合日程と結果

①12月7日　日本×タイ（54—15）

普段どうりのプレーができ、大差の勝利であった。この試合で、キーパー坪根選手が口唇に裂創を負い、本部医務室にて縫合処置を行った。

②12月9日　日本×クウェート（20—20）

残り9秒、中山選手のシュートで追いついた。執念の引き分けであった。この試合で、角谷選手が左胸部を強打しリタイアした。

③12月11日　日本×ＵＡＥ（29—19）

10点差で勝つも、得失点差で予選リーグ2位となってしまい、準決勝の相手は韓国に決まった。

④12月14日　日本×韓国（27—35）

力を出し切れず、金メダルの夢は断たれた。3位決定戦で勝つために、意気消沈した状態から、如何に選手たちのモチベーションを高めていくかがスタッフの課題となった。最もつらい2日間であった。

⑤12月16日　日本×イスラエル（28—23）

銅メダルを死守しなければならない試合で、審判がクウェートに決まり、精神的動揺が心配されたが、私の心配とは裏腹に、選手たちは素晴らしい内容で勝利をおさめた。

◎大会期間中の主な外傷と障害

傷病名と件数を表に示した。このうち、練習や試合を休まねばならなかったのは、重症の下痢1名（2日間の完全休養、点滴などで治癒）、腰痛症1名（最終戦を欠場）、肋骨不全骨折1名（テーピングなどで1日で復帰）、手指捻挫1名（1試合欠場後復帰）、第5手足疲労骨折1名（全試合欠場、帰国後手術）であった。

◎大会の医療体制とドーピング検査

日本選手団に医療本部が置かれていたため、簡単な処置

は問題なく受けられた。レントゲン検査などが必要な際のみ、選手村のメディカルセンターを受診した後、救急車でタマサート大学付属病院へ搬送してもらい、医師の診療と検査を受けることができた。大会中3名が病院へ搬送され、レントゲン検査を受けたが、フィルムやギプスシャーレ、杖など無料でもらうことができ、満足のいくものであった。ドーピング検査は決勝トーナメントで各チーム1回、1名のみ行われた。日本チームでは末岡選手が指名され、私が同伴して受けたが、問題なかった。

◎今後の要望

問題となったことは、トレーナーが1名しかいないため、試合後の選手のマッサージなどのケアーが十分にできなかったことである。

試合後、夜中までかかっても、4～5名の選手しか対応できず、必要があってもケアーを受けられない選手が、1日4～5名いた。今後は、このような大会の際だけでも、トレーナーの数を増やすことが、選手のスポーツ傷害の減少や競技力の向上に少しでもつながるのではないかと考えた。

ジャンパー膝	5件
下痢	3件
足・足関節捻挫	2件
手指捻挫	2件
腰痛症	2件
口唇裂創	1件
第5中足骨疲労骨折	1件
上腕二頭筋肉離れ	1件
肋骨不全骨折	1件

《女子チーム》

熊本赤十字病院　佐久間克彦

平成11年12月9日から12月14日までタイのバンコク市で第13回アジア競技大会が開催された。今回は、12月といえども暑さ対策と、厳しく行うと事前通達があったドーピング対策が課題であった。

タイは、熱帯地方にあるが12月が一番涼しく過ごしやすいと聞いていた。しかし、開会式があった12月6日（女子マラソンがあった日）さらに7日までは、激しいスポーツ活動は危険と判断されるＷＢＧＴ（湿球黒球温度）が26度以上あった。でもその後は過ごしやすい天候であった。また、選手村においても会場においても空調がしっかりしており杞憂に終わった。

ドーピングに関しては、事前の合宿よりサプリメントも含めて薬物の服用をドクターが一括して管理し、必要な時に選手に処方するようにした。今大会において日本チームは、1回1名施行されたが陰性であった。課題として、薬物の管理は可能である。しかしながら選手が日頃常用しているサプリメントに関しては、成分が表示してあっても日本製以外は禁止薬物が含まれている可能性を残すため日頃より所属チームでの教育が必要と思われた。

外傷・障害に関しては、メディカルスタッフとして帯同した吉田奈央トレーナーが獅子奮迅の活躍であった。マッサージ、針治療、電気治療、テーピングでのべ72回処置を行った。また事前の強化合宿にて膝関節炎が再発した1名に関しては、チームのキーパーソンであったため、出場した試合前に2回関節穿刺・注入を行った。また女子チームの特性であるが、生理が1人に始まると連鎖がおこり計5名に生理痛に対して鎮痛剤の処方を行った。

国際大会で体調を良好に維持するためには、やはり食事がきちんと取れることに尽きると思われる。実際今回の選手村の料理は、日本人には香りが強いものが多かった。しかし、韓国、北朝鮮、中国の選手が日本の選手の2～3倍もの量を食しているのを目の当たりにすると試合での動きも納得させられるものがあった。

平成10年度公認C級コーチ(ハンドボール)講習会終わる
～共通講習と資格取得者の発表～

平成10年度C級コーチ養成講習会について、昨年9月号で専門課程についての報告をいたしました。少し報告が遅くなりましたが、今回は、共通科目過程についての報告と資格取得者の名簿を発表いたします。

公認指導者制度とは

日本ハンドボール協会は平成元年9月30日付けで、文部大臣認定、競技力向上指導者養成時行団体に指定されている。養成の目的は、スポーツ活動を実施しているチーム、クラブやグループを対象に、競技における都道府県レベルでの基礎的・専門的なスポーツ技術の指導を行うと共に、クラブ・グループ等活動組織の育成・指導に当たる者を養成することにある。これに伴い、(財)日本体育協会と協力して公認コーチの講習を行い、公認指導者の養成を行っている。公認指導者にはスポーツ指導員（地域スポーツ指導者)、コーチ（競技力向上指導者)、教師（商業スポーツ施設指導者)、スポーツプログラマー、少年スポーツ指導者がある。ハンドボール協会が携わっているのは前二つの資格である。そして、今回行われたのはコーチ資格であり、コーチにはC、B、Aコーチの3資格がある。現在ハンドボール協会においては、それぞれ115名、56名、13名が登録されている。

資格取得希望者は、まずC級から取得しなければならない。ハンドボール競技においては、隔年で専門教科講習会を行っている。昨年の機関誌9月号（No.389）で既報のように本年度はすでに47名が受講している。講習会全体は、前期・後期の共通科目課程(共に4泊5日)、専門科目課程(5泊6日：基礎理論25時間、実技20時間、指導実技15時間)、レポートと検定試験から成っている。

共通科目講習とは

前期、後期共に毎年6会場が設定されて、その中から現住所に近い場所や、日程の良い場所を選び受講することが出来る。また、受講年限は4年間で、その間に全ての課程を修了しなければならない。共通科目には、出身大学や、大学での取得単位によって免除科目が設定されている。各教科には講義と検定試験がある。実技も盛り込まれており、頭と身体を使った内容の充実したカリキュラムが組まれている。

たとえば、昨年12月に行われた、第4東京会場では21競技、128名の受講者が集まった。それぞれが、各競技においてはエキスパートではあるが、皆真剣に講習に取り組んでいた。

実際、現場に出してしまうと、なかなか学習をする機会が得られず、練習もマンネリ化してしまうものである。また、トレーニング方法も日進月歩で、運動生理やバイメカ的知識も日々新たになっている。大学時代に体育を専攻しなかったものにはもちろんだが、大学時代に体育学を学んだものにとっても新たな発見の連続であった。実際には、久しぶりの勉強で頭を悩ましているものも多かったのではあるが……。



集合研修することの意義

講習は講義室ばかりではない。部屋は4人1組であるため日常生活の全てが学習となる。同じ競技の者が同室になることが一般的だが、他競技の方との交流も楽しい。中学、高校、実業団と日頃は異なった場所で指導に当たっているが、持っている悩みは同じで、又、異なった視点からのアドバイスには感心することが多い。

日頃スポーツといえばハンドボールばかりであるが、ウィンドサーフィンの指導者と話す機会のあった受講者は、トレーニング方法や、怪我の発生など全く異なっていることに驚いたという。陸と海という環境もあるかもしれないが発想が全く違うものであった。色々な種目の方と話す機会の中で、スポーツに対する考え方も競技により様々で、改めてスポーツ文化というものについて考えさせられた講習であった。

C級コーチ講習を受講して

第4東京会場（後期）の受講者の感想を以下に載せます。

☆有村　裕次（デンソーハンドボール部)

私は、高校から現在まで指導者として活動をすることもあまりなく、実際に指導といっても、どう指導していいかわかりませんでした。今回C級コーチ受講の話を聞き、勉

強してみようと思い受講しました。

まず初めは専門教科を受講しました。ここでは、ハンドボールの専門的なことを学習し、中でも日本ハンドボール協会のコアルスキー氏による熱心な講義、実技指導は、コーチはどうあるべきかということを教えてもらいました。また、各日本リーグの方や、学校の先生方に出会えることが出来たことも良かったです。

次に共通科目を受講しましたが、ここでは様々な競技の指導者がいました。Ｊリーグの有名な方もいましたので、この講習はすごいんだなと思いました。受講内容では、トレーニング科学、スポーツ医学、指導論、心理学等様々なことを勉強しました。そして最後には、検定試験があるので、皆さん真剣で、試験前日には徹夜で勉強する方もいたほどです。そして全体を通して、スポーツ指導には色々な知識が必要だということがわかりました。経験さえあれば、誰にでもある程度のことはできるでしょう。また、ただやるだけであれば指導者もいりません。しかしながら、我々のように日本リーグで戦うためには、勝つためのチーム作りをしなければなりません。ここでは技術指導が必要になってくるのです。そこで問題になるのが、専門的な知識を持っているかどうかと言うことです。指導には、教科書に書いてあるような一般論ではいかないことも多く、その時に応じた具体的な指導をしなければならないことのほうが多くあります。そのためにも、今後、指導者は高い専門性を身につけなければならないし、勉強していかなければ良い指導者にはなれないと、受講を通して感じました。

☆後藤　宜夫（千葉県立船橋北高等学校）

「ハンドボール」。現在の私が在るのは、この競技に出逢い、様々な経験を積ませてもらうことが出来たからです。

教職について８年、常に考えるのが選手の健康管理、怪我への対応、そしてフィジカルトレーニングです。それら様々な疑問への解決策を、この講習は科学的に、理論的に、そして実践的に与えてくれました。さらに有意義だったことは、様々な人生との出逢いです。同じ種目の人達とはもちろんのこと、色々な競技の人達との交流は今後の私の財産になることでしょう。この講習を受講したことを新たな出発点として、自己を高めると共に、「ハンドボール」に恩返しが出来たからと考えています。

☆得居　秀匡（小金井市立第二中学校ハンドボール部コーチ）

私は、日頃の指導について以前から何か物足りなさを感じていました。専門の競技の知識があっても、どこか説得力がなかったり、選手の気持ちが今ひとつ見えてこなかったりしたことがありました。そこで、本格的に指導者としての勉強をしようと思い、今回のＣ級コーチ養成講習会に参加しました。講習は、指導者に必要とされる様々の分野の学問に及び、講習会では全国各地から各スポーツ界で活躍されている方々が受講生として参加していました。普段はなかなか聞けない話が聞けたりと有意義な講習会でした。この講習会で学んできたことを、今後の指導に役立てたいと思います。

平成10年度Ｃ級コーチ資格取得者

このほど平成10年度公認Ｃ級ハンドボールコーチの受講結果が発表になり、別表の27名の方々が新たに資格を取得されました。新たに資格を取得された方々の今後のご活躍を祈念すると共に、お祝い申し上げます。

なお、今回は共通科目未修了の方が５名、専門科目未修了の方が１名おられます。平成11年度も共通科目は開催されますので、今年度修了されることを期待しております。

国民体育大会は、2000年富山国体より公認資格を持つことが望ましいと開催要項に記載されます。2007年よりは国体の監督・コーチは公認資格を義務付ける方向で動いております。この時に困らないように、各都道府県協会におかれましても公認指導者の育成にご配慮をお願いいたします。

菊田　克紀	二瓶　元嘉
亀井　好弘	泉谷　俊郎
玉村　健次	中田　親広
佐藤　壮一郎	角谷　喜代重
日原　正和	山村　敏之
中垣内　孝生	堀田　敬章
藤本　元	村山　みどり
志村　和子	宮田　政克
原田　宏樹	大橋　晃
疋田　雅己	武藤　誠
鈴木　まさみ	扇山　貴司
井料　たか子	伊藤　論志
吉田　達明	向井　勝二
後藤　宜夫	

ローカルを狙え！

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

第24回の日本リーグがスタートした。今回はこれまでとは少し趣が異なった。懸案であった女子が１、２部制を止めて12チームによる１回戦総当たりとなった。そしてプレーオフも上位３チームから４チームによるステップラダー方式となった。それだけ波乱のおこる可能性が増したともいえよう。

さらに日程的にも年末の女子世界選手権や来春の１月下旬のシドニー五輪予選のため、前・後期制をとらないで、男子は３期間、女子は２期間の短気集中型になった。

コンディション調整などこれまでにない新たな対応を迫られることにもなるだろう。また、短期決戦だけに立て直しにも難しい面があるだろう。それだけにこれまで以上にスタートの結果が大切になってくる。

ところで、昨シーズンはかつてなかったほど、メディアの露出度が高かった。プレーオフなどは新聞はもちろんテレビでもかなりの時間を割いて報道したことは、関係者の努力が実ったと言ってよいだろう。

しかし、それに安心して「今年も…」と楽観してしまっては、せっかくの昨年までの努力が水の泡になって消えてしまうだろう。とくに今年は2000年五輪予選が順次開催され、それでなくても情報量が多いのは明らかだ。昨年以上の積極展開が必要なのは言うまでもない。全国メディアへのリリースはともかく、もっとローカルメディアへの情報サービスを心掛けることである。

東京、大阪にどれだけチームが存在しているか考えてみれば分かるだろう。むしろローカルの方がリーグ所属チームが多いのだ。だからこそ、ローカルメディアをもっともっと活用することである。模様替えした今年のリーグの状況がどれだけ告知されたか分からないが、少しのことでも積極的にアピールすることが肝心である。

メジャースポーツの場合は、メディア側からのアタックもあるが、ハンドボールは残念ながらまだそこまではないのが現状である。「これでもか」くらいの対応をして、関心を持たせることである。待っていては意味がない。アプローチ、そしてフォローの繰り返しこそが、マスコミの注目を集めることになってくるはずである。ローカルを狙え！今季のキーワードにしてはどうだろう。

ANA

ANA CARD

ANAカードなら、旅の応援機能満載。マイレージの楽しさも大きく広がります。

空港でも余裕のチェックイン

出張先でのショッピングもバックアップ

旅の安心。保険もサポート

ホテルのご利用もおトク倍増

航空券ご予約が、スムーズアップ

ショッピングでマイルを貯めるならやっぱりANAカード!

お買物やお食事でもカードでしっかり貯めやすい

クレジット会社のポイントを100円=1マイルで貯められます。

一度で2倍貯まる「ショッピングアルファ」も充実

下記のお支払い内容なら、100円＝1マイルを自動的に加算。クレジット会社のポイントによるマイルと合わせて、100円=2マイルになるうれしいサービスです。

■対象商品・店舗

●国内全日空各支店、空港カウンターでの航空券のお求め、および機内販売 ●高島屋 ●日本石油SS ●出光SS

ANA　ANK エアーニッポン　髙島屋　NISSEKI　出光

さらにボーナスマイルで貯めやすさがアップ!

飛ぶたびに基本マイレージの15%（ワイドカードの場合。一般カードは5%）のボーナスマイル。また、毎年初めてのご搭乗時に3,000マイル（ワイドカードの場合。一般カードは1,000マイル）のボーナスマイルでおトクに貯まります。

今なら、一般カード初年度年会費無料サービス中です

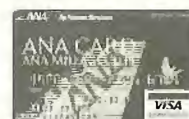


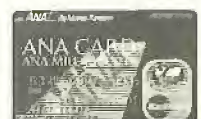
今日からマイルが貯められるインスタントカード付き

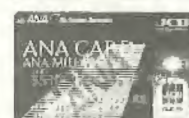
お問い合わせ、入会申込書のご請求は、フリーダイヤル 0120-029-707 まで

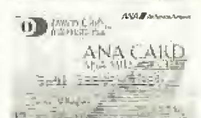
[受付時間] 9:30～17:00（土・日・祝・年末年始を除く）

全日空各支店、空港カウンターにもございます。









列島縦断【長野県の巻】

信濃路で燃えて輝けきらめく力

長野県ハンドボール協会理事長　岩下　道範



◆長野県ハンドボール協会の歴史

県高体連発足と共に協会が設立され、本県のハンドボールは、戦後の新興スポーツとして、昭和24年当時北佐久農高教諭であった油井孝一郎氏によって体育の授業の中に取り入れられたのに始まり、東信地区の高等学校に広まった。そして、同年10月に長野県高体連教師の有志によって、県ハンドボール協会が設立されたのである。その2年後には最初の協会主催による講習会を日本協会より高島冽氏を講師として迎え、出身校でもある松本深志高校グランドで行った。

本県のレベルアップを願っての意義ある講習会ができたのであった。また、全国大会は昭和39年上田市に於いて全国高等学校選手権大会、昭和52年には国体リハーサル大会として全日本教職員大会が、更埴市と戸倉町で開催されている。

国体本番に向けての大会でもあり両市町民総出の協力の下に盛大に行われ、大会運営も円滑に運び成功をおさめた。

翌昭和53年には県民の熱い期待を胸に第33回やまびこ国体が開かれ総合優勝という輝かしい記録を残し全協会役員、競技者共々その美酒にしたる事ができた。その後成年男子に到っては幾度となく国体に参加し、本県では唯一中心的存在である。また、少年男女・成年女子に於いては優秀な指導者の下で確実にその努力が実りつつあり現協会役員もその発展を願っている。

◆第28回全国中学校大会を目前にして

「信濃路で燃えて輝けきらめく力」すばらしいスローガンのもと、第28回全国中学校大会がこの8月22日～25日まで、山と緑の美しい信州で開催されます。

会場は長野オリンピックのアイスホッケー・フィギュア会場となったホワイトリングを使用し、全国各地から予選を突破した若人がその技と力を十分に発揮するには最高の会場と言えるでしょう。

大会を前にしての準備も着々と整い、7月17日・18日には県中学校総合体育大会をリハーサル大会と位置づけており役員、選手に於いてもこの大会の成功を願って頑張っております。また、本県の中学生のレベルは男女共にここ数年で着実に向上しており地元開催の大会では上位入賞も夢ではなくなって来ています。

◆冬季長野オリンピックを経験して、スポーツに対する県民の意識

平成10年2月に行われた冬季オリンピックは大成功を収め全世界にジャパン長野の名を知らしめた。県民にとっても交通網をはじめ各競技施設は充実し、その後それぞれの施設は多目的に使用できるようにフロアー等も張り替えられ県民のスポーツに対する意識もオリンピック施設を気軽に使用できるとあって高まってきております。また、オリンピック開催中、小中学校においては一校一国運動の名の下に各国の一流選手との交流を通して子供達のスポーツに対する意識の高揚が見られるようになりました。

今回、全国中学校大会に参加される役員・選手の皆さん方には日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、信州の夏を満喫すると共に競技でのご活躍を祈っております。

寄稿 より良いゲーム作りにレフェリーができること

大阪府　光島磯雄

《こうしたらレフェリーワークはもっとやりやすくなり、見ていても面白くなると思う》

すでに23年にもなる日本リーグでの出来事を思い出すにつけても、プレイ技術面では長足の進歩をとげたことは誰の目にも明らかであるが、はたしてそれが「見て面白い、観客を楽しませたか？」となると十年一日のごとき感がするのはなぜだろうか。２月27日のレフェリーシンポジウムでの杉山茂氏の「見て楽しい、面白い、そしてわかりやすいハンドボールの提供を期待する」とのテーマによる講演を機関誌で読んだことと関連して私自身吹く立場から見守る立場になって、これではいかぬと考える身近な問題点を以下にあげてみたいと思う。

1　ＪＨＬチームの中にはユニフォームの背番号胸番号の表示を規定どおりに実行していないチームが見られる

どのチームもユニフォームを発注するときには、それぞれ趣向をこらして色やデザインを考えているのであろうが、すべてのチームがルール４：７の第３文と18：３第２文に注意を払っているとは言えない場面が多く見られる。観客も少ないし、会場も大きくないなどの現状ではそれほど問題にしないのであれば、夢も希望も捨てているのではないかとも言いたくなる。「見せるハンドボール、見せるプレイヤー」には程遠いと言われても仕方がないのではないか！会場の大小広狭はあるにしても観客席の片隅からでもはっきりわかるような表示を心がけてもらいたいものである。特に記録・計時係は極めて短時間に正確な仕事が要求されていることでもあり、この種の不都合は任務の遂行に多大の支障をきたすことがある。以前の世界選手権大会で日本チームが記録席から苦情を言われたことはもう古いことになるが。プロスポーツや人気スポーツのプレイヤーの番号表示は例外なく鮮明で観客に訴える力が感じられる。縦縞のユニフォームは必ず白布地の上に表示するなどは当然である。デザイン・色にしてもはじめに「ルールあり」そして「どこからでも見えやすいこと」に留意してもらいたい。なお４：７第６文には、「試合実施条件」が完備していなければ試合を認めないこともあると解釈できる条項があることを付け加えておく。レフェリーとしてもこんなことで悶着を起こしたくはないはずである。

2　得点掲示のチーム名表示方法についての要望

従来会場の付帯設備を利用しているが、ほとんどが小型でチーム名・点数・時間の判読に不便である。少なくともビッグイベントには観客へのサービス向上の見地から便宜をはかる方法手段が考えられないであろうか。たとえば、チーム名の略称とか表示書体に工夫（見えやすく）があっても良いのではないか。

3　試合中の場内放送で、なんらかの「特殊状態発生」には審判長から適切な説明がただちに付け加えられるようなサービスも必要ではないか

観客へのサービスとしてレフェリーが小型マイクを持って判定をみんなに知らせることも考えられないか？

4　レフェリングで攻防観察に徹底的にアドバンテージを活かしていることを理解してもらえる笛を吹くこと

「これから」という場面で「はやとちり」で「軽率な」笛でせっかくのアドバンテージを台無しにするレフェリーは、チームからも観客からも歓迎されないことを自覚すべきである。レフェリーは「競技理念に反する笛」「試合の流れにさからう笛」「不必要な笛」と「必ず吹くべきであっても、そのタイミングを心得た笛」の区別ができて、厳格寛容あわせ示すことのできるレフェリー像への期待に応えなければならない。別の表現をすれば面白いハンドボールとは、観客・プレイヤー・トレーナー・レフェリーが一体となって追求するものであり、レフェリーはあたかも巧妙なコンダクターとして会場の雰囲気を盛り上げる役割で「責任」を負うわけである。

世界選手権大会は開催したもののハンドボールの現状は残念ながら依然としてマイナーの域に向上を模索している段階である。日本リーグから有力チームの撤退が相次ぎ前途多難を思わせるが、現在できることを精一杯レベルアップするための方法として「日本リーグ」と「各ビッグイベント」の充実は何にもまして重要視されなければならない。

連載④ 世界の技術・戦術を学ぶ

—World Handball Magazine 1996年1号より—

指導委員会

４月号からの連載は、「世界の技術・戦術を学ぶ」と題して、IHFより発行されるWorld Handball Magazineのなかの技術練習として取り上げられている部分を、指導委員会を中心に多くの情報担当者の協力を得て訳していただきそれを構成して多くのハンドボール関係者のみなさまへ情報を提供しようとするものであります。

今月号は、セットオフェンスにおける攻撃構想の一つの考えとして、攻撃の導入となる“きっかけ”となるプレイとそのフォローについての報告であります。これに関しては、1995年日本ハンドボール協会から出された「World Hand」において、会田氏（武庫川女子大）より研究発表されておりますので是非ご覧下さい。

この連載の中におけるポジションの表記に関しては、基本的には参考図に示すドイツ語表記を利用いたします。

（指導委員会　笹 倉 清 則）

水　上　　一（筑波大学）

攻撃構想（プレイ）の主要課題

きっかけのプレイヤーフォローのプレイを中心とした戦術的動きを利用する今日の攻撃構想の発達。
Arno Ehret（ドイツ、男子ナショナルチームトレーナー）により提案された。
1995年、カイロで行われたIHFトレーナー、レフェリーシンポジウムで取り上げられた。

攻撃構想の主要課題とは？

すべてのトレーナーは若いプレイヤーに指導していようとも、熟練者に指導していようとも、そのプレイヤーたちを納得させ、上達させる、ゲームのための「基本的な考え方」をもたなければならない。もちろんその「考え方」は、プレイヤーたちの長所や短所により、または、プレイヤーが持つ能力的要因により導かれるにちがいない。これらの要素とは無関係に、トレーナーは、例えばある時期に到達すべき攻撃プレイのレベルなどの、トレーニングやプレイの目標を定めなければならない。

以前は、フォーメーション的な動きのトレーニングが多くなされていたが、今日のハンドボールにおいては、バリエーションのある攻撃構想が必要となってきている。

戦術的なねらいを持ったきっかけの動き（例、クロスプレイ、ブロックプレイ、ダブルポストへの移行プレイ、１対１などの崩しの動き）や、フォローのプレイによる創造的なバリエーションのあるプレイは、攻撃的なゲームのための課題である。

図１は攻撃構想の主要課題を示したものである。

ここでは、４つのポイントが決定的に重要である。

○ポジション攻撃におけるきっかけのプレイは、１対１の動きを結合して、コンビプレイ（フォローのプレイ）を形作るものである。攻撃の空間的な優位性は、例えばあるプレイヤーが１対１に勝つなどの、プレイヤー個人のスキル（能力、技術）によっても生まれる。

○１対１は特にポストプレイヤーのブロックプレイにより有利に展開される。

○国際的なレベルではポジションプレイが明らかに主流である。クロスプレイヤーダブルポストへの移行プレイのバリエーションがここでは重要である。

これら４つのきっかけのプレイはすべて中心的目標を持っている。

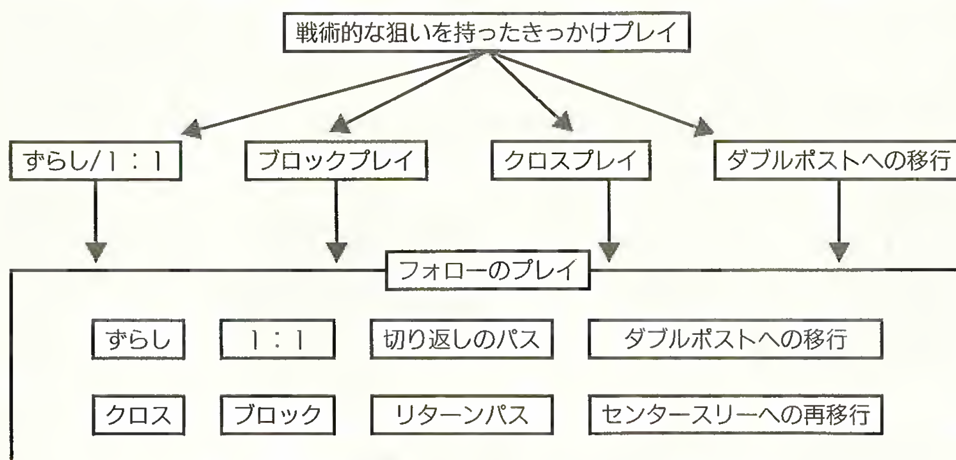


図１　きっかけとフォローのプレイの可能性

攻撃における空間的な優位性

戦術的ガイドライン

・プレイの流れ、スピードを止めない
・すべてのプレイヤーが常に攻撃の準備をしている：
　ー前への動きの後すぐに次の位置をとる。(ステップバック)
　ーポジションチェンジした後、すぐに新しいポジションから次のプレイをする。
・ディフェンスの動きに対して攻撃を行い、フリーなスペースを利用する。
・ポジション的に有利な位置が得られなかった時には、次のフォロープレイを連続して行う。

有利な状況では、きっかけのプレイの中からゴールを奪うことができる。もちろんゲームでは、常にそのような状況があるわけではない。

きっかけのプレイをフォーメーション的に組織化したチームは、ゲームの中で自分たちのプレイの方向性やこれから始めようとする新たな試みをディフェンスに予測されるため、たいていプレイの流れを悪くしている。これでは、ディフェンスに有利な位置取りをされてしまうことになる。このような状況を避けるために、戦術的な狙いを持った、ディフェンスの状況に応じたフォローのプレイを連続させることが重要なのである。

それではこのフォローのプレイ（図１参照）にはどのようなプレイがあるのだろうか？オフェンスでの空間的な優位性が、ずらしの動きや１対１によって獲得されたなら、その優位性は利用されるだろう。その攻撃が空間的な優位性をまだ獲得していないなら、さらにフォローのプレイを続けるべきである。きっかけのプレイに引き続くフォローのプレイは、バックパス、ブロックプレイ、リターンパスのような簡単なグループ戦術を形成する。ポジション攻撃を展開するときには、クロスプレイヤー移行プレイにより、ダイナミックなポジションプレイで攻撃を連続することが効果的である。

もうすでに移行プレイが行われているなら、ディフェンスの状況に応じて変化する次のフォローのプレイとして、リターンパス、ブロックプレイ、クロスプレイ（例、左45°プレイヤー（ＲＬ）と右45°プレイヤー（ＲＲ））を連続して行うべきである。また、例えば、ダブルポストの攻撃隊型からセンタースリーの攻撃隊型への再移行も可能である。

フォローのプレイの構成要素としての動きには、２つの基本的な原則がある。

⑴フォローのプレイはフォーメーション化されるべきではなく、各プレイヤーのよりディフェンスの状況に応じて自発的に創造的にプレイされるべきである。
⑵フォローのプレイはシュートをするためにプレイヤーの能力を合わせて､グループ戦術を形成して行うべきである。

プレイヤー１人１人のプレイの幅が広がれば、戦術的な準備（フォローのプレイの形成）の必要性は少なくてすむ。

◎「ずらしの動き／１対１」をきっかけとしたプレイ

下の基本的な原則は一般に有効であり、１対１では、すべてのきっかけのプレイが当てはまる。(基本的にすべてのポジションから可能である：ＬＡ（左サイド）／ＲＡ（右サイド）ーＲＬ（左45°）／ＲＲ（右45°）ーＲＭ（センタープレイヤー)。ここで最も重要なことは、１対１のきっかけのプレイを行ったプレイヤーが、自分が「シュートをするのか、カットインするのか、フォローのプレイを続けるのか」を状況に応じて判断することである。トレーニングでは、例えばパスをした後の動きなどのボール保持していないときの動きに注意が向けられなければならない。攻撃プレイヤーがパスの後、防御プレイヤーを見て次の位置取りをすれば、攻撃の新たなチャンスを切り開くことができる。

この点において攻撃をディフェンスの状況に応じて行えるものに到達させられれば、ディフェンスへのプレッシャーは大きくなり、効果的な攻撃プレイが続けられるにちがいない。

○１対１ですでに空間的な優位性を獲得しているならずらしの動きを行う。
○ディフェンスにとってプレッシャーとなる戦術的なねらいを持ったフォローのプレイを連続させる（クロスプレイ、ブロックプレイ、移動プレイなど）

◎ブロックをきっかけとしたプレイ

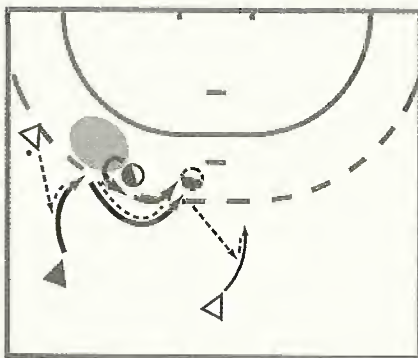
「ブロック」をきっかけとしたプレイの基本的ルールは左45°（ＲＬ）とポスト(KM)の間のブロックプレイの例でみられる。もちろんこれらの例は他のすべてで考えられるブロックプレイに当てはまる。ただ動きを固定するのではなく、状況に応じたプレイができるようにトレーニングすることは、ここでも重要である。(シュートを狙うかポストパスを狙う）ディフェンスがブロックプレイをうまく守った場合でも、ねらいを持ってフォローのプレイを行うために、ディフェンスの状況に応じてプレイを続けること、例えばパスした後、有利な位置取りをする動きは特に重要である：例えば45°防御プレイヤーがインサイドに走り込むポストプレイヤーを防御するなら、オフェンス側はアウトサイドに走り込む左45°プレイヤー（ＲＬ）へのパスですぐに新しいフリーなスペースを攻撃することができる。(目的：フリースペースに走り込むこと)

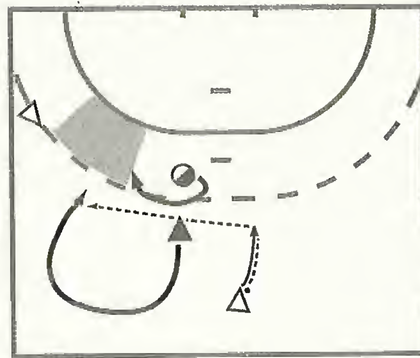
もちろんすべてのきっかけのプレイがうまくいかなくても、次のフォローのプレイ、例えばクロスプレイヤーダブルポストへの移行プレイを行うべきである。オフェンスをうまく行うために(テンポよく、リズミカルに)、新しく攻撃を組み立てなおすことなくディフェンスにプレッシャーを与えるプレイを続けることは重要である。

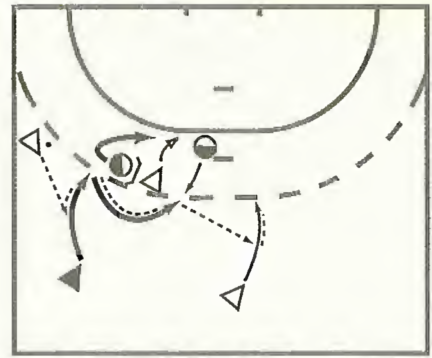
◎「クロス」をきっかけとしたプレイ

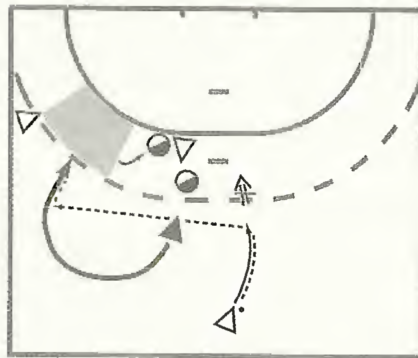
次にセンタープレイヤー（RM）と右45°プレイヤー（ＲＲ）の間のクロスプレイは戦術的な基本原則を説明するのに利用される。(代表的なものである)これらの原則は考えられるすべてのクロスプレイで利用されている。ここでも、トレーニングにおいて２つの重要な点を区別することが重要である。

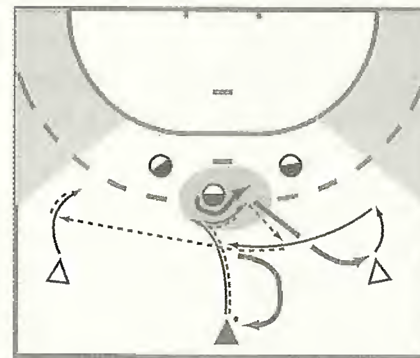
○まず第一に、きっかけとしてのクロスプレイは単なるパスプレイではなく、前を攻撃するプレイであるということ

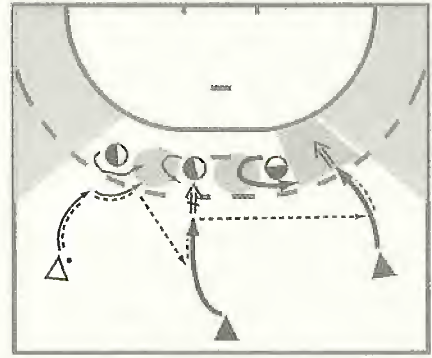

図2

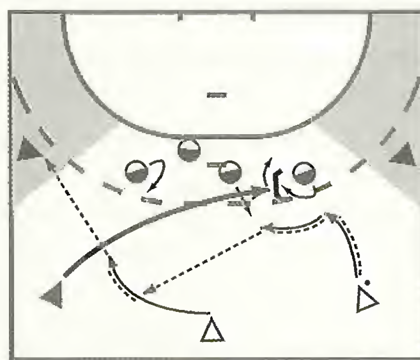

図3

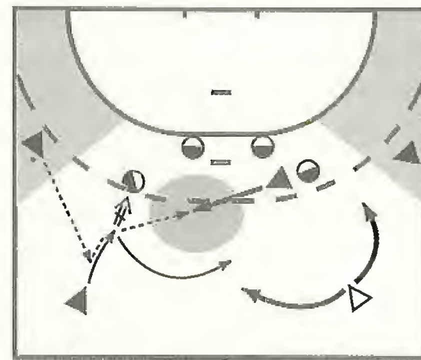

図4


図5


図6


図7


図8


図9

である。「クロスする」という攻撃プレイヤーのねらいが早い段階で防御プレイヤーにわかってしまう場合には、クロスプレイを行っても有利な位置をとることは難しい。したがって、きっかけとしてのクロスプレイも状況に応じて、創造的にトレーニングする必要がある。例えば右45°プレイヤー（RR）とセンタープレイヤー（RM）がクロスプレイをして、防御プレイヤーが早い時期にチェンジして、右45°プレイヤー（RR）の走り込みをインサイドで待ち構えている場合には、右45°プレイヤー（RR）の走り込みのコースを変更し、アウトサイドへ攻撃する（走り込む）べきである。

○第二のポイントはフォローのプレイにおいて重要である。シュートを狙うことができなくても、良いクロスプレイをした場合、攻撃プレイヤーは少なくともディフェンスを動かすことができる。この動きは次の新しいポジションから、ゴールを奪うチャンスを切り開く。

—ディフェンスの動きに対するオフェンスの動き（関連のある図参照）

—新しいポジションでプレイヤーが得る利き腕側の有利さを利用する。
（センターポジションでの左利き、右45°ポジションでの右利き）

—チームを有利に導く：戦術的ねらいを持ったフォローのプレイを連続させる。
例、ポストプレイヤーによるスルーブロックプレイ
もちろん他にも戦術的攻撃プレイはある。

—例、左45°プレイヤー（RL）とセンタープレイヤー（RM）（左利き！）のクロスプレイ、これは次のフォローのプレイを意図している。

◎「ダブルポストへの攻撃隊型の移行」をきっかけとしたプレイ

移行プレイでもトレーニングにおいて同じ問題が起こる。ダブルポストへの攻撃隊型の移行をきっかけとしたプレイで新しい攻撃隊型（ほとんどがダブルポストの攻撃隊型だが）に移行して、フォローのプレイの構想を持たないで攻撃を続けても、その間にゴールを奪うチャンスは生まれない。しばしばオフェンスは、防御プレイヤーの積極的なデ

ィフェンスで攻撃を中断され、パッシブプレイに持ち込まれる。

ここでも戦術的なガイドラインに従って、フォローのプレイを続けなければならない。リターンパスで攻撃をつなげるなどの効果的なフォローのプレイは、効果的な攻撃を可能にする。センタースリーの攻撃隊型に戻ったとしても、攻撃の流れは止まることはない。このきっかけのプレイのモデルとして、右45°プレイヤー（ＲＲ）がセンターポジションに移動すると、左45°プレイヤー（ＲＬ）は左サイドプレイヤー（ＡＬ）からパスをインサイドへ大きく走りこみ、もらうことで、すでに空いている右45°のポジションから攻撃する、これによりダイナミックな攻撃活動が連続される。

◎「ずらしの動き／１対１」をきっかけとしたプレイ　（図２、３）

攻撃開始局面での基本的原則（図２）

—防御プレイヤーに向かうのではなく２人の防御プレイヤーの間のすきまに動く。

—防御プレイヤーを引きつけ、次のプレイヤーパスをつなげる＝攻撃を行うのに有利なポジションにいる味方に！

—ボディコンタクトを受けても正確にパスをする。

—タイミングをはかる：ディフェンスが「突破されるのを恐れて」スペースに移動したら、パスをする。

◎フォローのプレイの基本的原則　（図３）

主な原則はすぐに攻撃の準備をすることである

—例えば、ディフェンスを引きつけパスをする。そのパス(例えばバックパス)は攻撃のテンポを止めることはない。

—防御プレイヤーを見る：防御プレイヤーから離れて動く。

—防御プレイヤーとの間合いは、パスをもらってすぐにシュートが打てるようにとる。

—フォローのプレイは防御プレイヤーの動きに応じて行う。

◎「ブロック」をきっかけとしたプレイ　（図４、５）

攻撃開始局面での基本的原則（図４）

—ボールを保持している攻撃プレイヤーは、まず防御プレイヤーがねらいどうりに、ポストプレイヤーのブロックにかかるポジションに動く。

—ボールを保持している攻撃プレイヤーのきっかけの動きはブロックプレイが成功するためのものである。

—ポストプレイヤーはブロックプレイを行うために、ディフェンスの動きを観察し、正確に予測しなければならない。

◎フォロープレイの基本的原則　（図５）

—防御プレイヤーの動きに応じてフォローのプレイを行う！

—パスをした後、すぐに次の攻撃の準備をするべきである！同じ原則が１対１の状況と同じようにここでも適用される。

—プレイが成功しない場合には、防御プレイヤーの動きに応じてフォローのプレイを続けるべきである！

◎「クロス」をきっかけとしたプレイ　（図６、７）

攻撃開始局面での基本的原則（図６）

—クロスプレイを始める攻撃プレイヤーは、パスの後、すぐに攻撃ができるポジションをとるべきである。

—クロスプレイを始める攻撃プレイヤーとクロスプレイをする攻撃プレイヤーは、早い時期に自分のプレイの方向を判断しておく：走り込む方向、シュートを狙うのかパスするのか。

—ディフェンスを引きつけている間にクロスしなさい（例、クロスプレイを始める攻撃プレイヤーによる１対１から）！ディフェンスがチェンジミスをする状況(マークミス）を作りなさい、さもなければ空間的な有利さは得られない！

◎フォローのプレイの基本的原則　（図７）

—パスした後、クロスプレイを始める攻撃プレイヤーとクロスをする攻撃プレイヤーは、ゴールを奪うためにすぐに新しいポジションからディフェンスを引きつけなければならない。

—フォローのプレイのタイミングに注意しなさい：左45°プレイヤー（ＲＬ）はアウトサイドの防御プレイヤーがインサイドにマークにきたらアウトサイドのほうにプレイする。しかし、もし、

—右45°プレイヤー（ＲＲ）かセンタープレイヤー（RM）が新しいポジションから攻撃をしようとしているなら

—ディフェンス全体がボールの方向に動いたならもとのポジションにもどりなさい。

◎「ダブルポストへの攻撃隊型の移行」をきっかけとしたプレイ　（図８、９）

攻撃開始局面での基本的原則（図８）

—攻撃隊型を移行している間の空間的な優位性を利用する：

—ディフェンスがチェンジをする状況（マークミス）

—きっかけの動きとしてポストプレイヤーになる攻撃プレイヤーはブロックプレイを試みる。(基本的な原則にするべきです)

—ディフェンスの動きに応じてプレイする。

◎フォロープレイの動きの基本的原則　（図９）

—ダブルポストの攻撃隊型に移行した後、２人のポストプレイヤーはすぐにフローターやサイドプレイヤーとプレイを続けるべきである。(グループでプレイを合わせる)

—フォローのプレイの可能性として：

—ブロックプレイ／ブロックプレイのダミー

—クロスプレイ

—新しいポジションでの１対１と適切なフォローのプレイの動き

—次の戦術的ねらいを持ったフォローのプレイ：

—例、リターンパス（図参照）

—センタースリー攻撃隊型への再移行

(前号の図４、図５が同様の図であるとのご指摘をいただきましたが、原本が間違って同様の図を掲載していたものをそのまま転載してしまいました。お詫び致します。笹倉)

平成11年度全日本大会審判一覧表

平成11年4月20日現在　審判部

大会名	開催地	期日	審　判　員　名
第40回　男女 全日本実業団選手権	大阪市	4／22 ～25	◎喜井美雄　○吉田敏明 仲田　稔・植村　彰（指名）浅野　幹也・家永　昌樹（指名）小山　勉・佐路　清隆（京都） 金谷　将央・寺内　啓之（大阪）吉田　正明・浅井　隆志（大阪）
第50回 全国高校選手権大会	岩手県 盛岡市	8／1 ～7	◎市瀬公敬　○細沢　覚　○池田加一　○田村　登　○高橋元一　○町屋明彦 佐藤　睦朗・大沢　由和（指名）大橋　幹正・俵　英生（北海）工藤　茂・横山　繁（青森） 渡部　努・高橋　一（秋田）尾形　俊賢・佐藤　健（宮城）柏崎　博之・小野　恭一（山形） 田川　卓史・菊田　克紀（福島）中舘　豊・多田　和生（岩手）山口　淳・小田中達夫（岩手） 柏舘　秀一・西郷　晃（岩手）工藤　里花・外舘由美子（岩手）小林　一夫・土屋　雅男（埼玉） 本田　義昭・山田　啓太（神奈）名倉　昭弘・近藤田都哉（岐阜）楓　健児・渡辺　貞彦（愛知） 池田　尚美・久保　博（広島）石川　達也・今井　茂宏（愛媛）新荘　悌男・水上　秀憲（福岡） 藤本　幹生・田中　一則（熊本）小山　吉明・小口　政則（長野）矢本　康成・神野　利雄（兵庫）
第4回 ジャパン・オープン・ トーナメント	氷見市	8／7 ～10	◎斉藤　実　○中山光広　○光安美津夫 藤井　俊朗・大熨　嘉彦（指名）満井　寿彦・木村　篤史（宮城）菊池　源・羽田　裕一（東京） 八田　政久・菊島　裕次（山梨）内藤　岳・清水　保雄（静岡）河合　千丈・濱口　卓志（愛知） 杉山　孝広・亀井　好弘（香川）山口　弘夫・岩上浩一郎（富山）大石　克哉・徳前　紀和（富山） 藤井　善彦・竹野　誠司（福井）小川　浩・関　昌央（新潟）中村　哲・佐野　誠一（石川） 中田　一宏・山口　和博（石川）小山　勉・佐路　清隆（京都）岡辺　清和・翁長　徹（兵庫）
第41回 全日本教職員大会	徳山市	8／10 ～13	◎島崎政治　○古富　博 加藤　晃・岡村　尚明（山口）浜角　智之・山本　淳（島根）小沢　敏正・田中　宏明（鳥取） 万代　和孝・米田　健（広島）
第28回 全国中学校大会	長野市	8／22 ～25	◎溝口博一　○高田和英　石塚　広一・細津　誠（埼玉） 今井　典幸・長谷川明宏（群馬）菊島　功・依田　久（山梨）楡井　俊彦・窪田　新治（山梨） 大須賀成治・大川　富（愛知）与那嶺　哲・根路銘国斗（沖縄）小坪　新一・桜打　佳浩（富山） 塩川　亮広・服部　博幸（長野）中村　明裕・田村　裕志（石川）岡村　尚明・梅本　司（山口）
第54回 熊本国民体育大会	山鹿市 松橋町 本渡市	10／22 ～28	◎斉藤　実　○森山正治　○大村守也 後藤　登・清水　宣雄（指名）浜田　浩和・小笠原久朗（指名）仲里　貢・中地　憲三（指名） 大石　克哉・桜打　佳浩（富山）田原　和雄・河田　孝一（山口）長谷部次雄・宮崎　光一（高知） 新荘　悌男・水上　秀憲（福岡）境　吉彦・牟田　安典（佐賀）金子　弘明・児玉浩三郎（長崎） 島村　浩信・亀井　一寿（大分）別府　志朗・押川　幸広（宮崎）奥山　誠恒・井料たか子（鹿児） 藤本　幹生・田中　一則（熊本）福島　亮一・山下　智紀（熊本）宇佐見誠也・四宮　一郎（熊本） 坂本　詔一・鶴田祐一郎（熊本）小山　勉・佐路　清隆（京都）
第42回 全日本学生選手権大会	函館市	11／13 ～17	◎佐野和夫 後藤　登・清水　宣雄（指名）大橋　幹正・俵　英生（北海）松崎　雅芳・小野寺明彦（北海） 渡辺　邦夫・山口　工（北海）村瀬　清史・笹川　賢俊（北海）中島　昭博・谷藤　節雄（岩手） 池田　尚美・奥川　和永（広島）高田　和英・田村　裕志（石川）
第51回 全日本総合選手権大会	男子： 名古屋市 女子： 横浜市	12／23 ～26 2／17 ～20	◎斉藤　実　○板倉孝雄 ◎斉藤　実　○上久保重次
第8回 JOCジュニア オリンピックカップ	大阪市	12／25 ～27	◎溝口博一　○北山　隆 小林　一夫・土屋　雅男（指名）浅井　隆志・岸本　光夫（大阪）山内　徹好・西堀　和彦（滋賀） 丸谷　謙二・奥田　政俊（奈良）倉本　積一・佐川　正巳（奈良）橋山登志一・井上　清光（滋賀） 梅田　淳夫・横山　和哉（和歌）西園　友秀・保田　良明（兵庫）松森三樹男・大西　清志（兵庫） 佐谷　光一・村尾　亮（大阪）小山　勉・佐路　清隆（京都）中島　良夫・西沢　祐二（京都）
2000 実業団チャレンジ			◎喜井美雄 武智　誠治・松原　誠起（指名）
第23回 全国高校選抜大会	大阪市 舞州市	3／24 ～28	◎市瀬公敬　○細沢　覚　○佐谷光一 阿部羅大造・浜野　大助（指名）大橋　幹正・俵　英生（北海）安孫子　功・高橋　善浩（山形） 福田　弘・冨田　拓（茨城）奥村　誠・高森　賢（岐阜）佐藤　竜也・奥田　孝治（富山） 八十山　修・北中　弘規（石川）丸川　勝己・大塚　敏明（岡山）加藤　晃・原井　進（山口） 佐藤　公美・小川　昌志（徳島）武智　誠治・定岡　孝明（愛媛）仲里　貢・中地　健三（沖縄） 梅田　淳夫・横山　和哉（和歌）矢本　康成・神野　利雄（兵庫）伊藤　公英・小林　弘和（滋賀） 佐川　正巳・矢野　勝弘（奈良）尾崎　浩祥・伊藤　保仁（大阪）佐々木昌弘・高原　浩徳（大阪）

平成11年度全国高等学校総合体育大会 第50回全国高等学校選手権大会要項

1．主催　全国高等学校体育連盟（財）日本ハンドボール協会 岩手県　岩手県教育委員会　盛岡市　盛岡市教育委員会

2．後援　文部省（財）日本体育協会 NHK （財）岩手県体育協会（財）盛岡市体育協会

3．主管　全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部　岩手県高等学校体育連盟　岩手県ハンドボール協会

4．協賛　コカ・コーラボトラーズ

5．期日
1）開会式 8月1日（日）15：00～
2）競　技 8月2日（月）～7日（土）6日間
3）閉会式 8月7日（土）競技終了後

6．会場
1）開会式　岩手県民会館大ホール
〒020-0023 盛岡市内丸13－1 TEL019－624－1171
2）競技　盛岡市アイスアリーナ
〒020-0866 盛岡市本宮字松幅100－1 TEL019－658－1212
盛岡体育館
〒020-0066 盛岡市上田3－17－60 TEL019－652－8855
岩手大学体育館
〒020-0066 盛岡市上田3－18－8 TEL019－621－6000
岩手県立盛岡第一高等学校体育館
〒020-0066 盛岡市上田3－2－1 TEL019－623－4491
岩手県立盛岡第二高等学校体育館
〒020-0887 盛岡市上ノ橋町7－57 TEL019－622－5101
岩手県立盛岡第三高等学校体育館
〒020-0114 盛岡市高松4－17－16 TEL019－661－1735
岩手高等学校体育館
〒020-0062 盛岡市長田町7－60 TEL019－624－4445
3）閉会式　盛岡市アイスアリーナ
〒020-0023 盛岡市本宮字松幅100－1 TEL019－658－1212

7．競技日程
8月2日（月）男・女1回戦
8月3日（火）男・女2回戦
8月4日（水）男・女3回戦
8月5日（木）男・女準々決勝
8月6日（金）男・女準決勝
8月7日（土）男・女決勝

8．競技規定
1）平成11年度（財）日本ハンドボール協会競技規則による。
2）大会使用球は、（財）日本ハンドボール協会検定球とする（縫いボール）。

9．競技方法　トーナメント方式

10．参加資格
1）選手は、学校教育法第1条に規定する高等学校に在籍する生徒であること。
2）選手は、各都道府県高等学校体育連盟に加盟している生徒で、当該競技要項により全国大会参加の資格を得た者に限る。
3）各都道府県ハンドボール協会を経て、（財）日本ハンドボール協会に登録されたチーム。
4）ア　年齢は、昭和55年4月2日以降に生まれたもので、19歳未満のものとする。ただし、出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。
イ　特例として、この第4号アに定める年齢制限について、中国残留日本人孤児及びその子女については適用しない。
5）チームの編成において、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
6）統廃合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる大会参加を認める。
7）転校後6か月未満のものは参加を認めない（外国人留学生もこれに準ずる）。
ただし、一家転住等やむを得ない場合は、各都道府県高等学校体育連盟会長の認可があればこの限りではない。
8）出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校の校長及び所属する都道府県高等学校体育連盟会長の承認を必要とする。

11．参加制限
1）各都道府県男女とも各1チーム。ただし、開催県（岩手県）は2チーム出場することができる。
2）1チームの人員は選手14名以内、部長1名・監督1名・主務1名とする。
3）外国人留学生の参加については、大会登録選手14名の内2名までとし、競技出場も7名中2名までとする。

12．表彰
1）優勝校の男女に、男子は高松宮賜杯を、女子には高松宮妃賜杯を授与する。
2）賜杯のほか優勝校には、男女とも全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部優勝旗・日本ハンドボール協会杯・全国高等学校体育連盟会長杯・文部大臣杯（以上持ち回り）及びNHK盾を授与する。
3）第1位から第3位までのチームには、男女ともチーム表彰状を授与し、個人には表彰状とメダルを授与する。

13．組み合わせ
1）日時　平成11年7月2日（金）13：00～
2）場所　ホテル東日本　TEL019－625－2131
3）抽選　全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部常任委員会で抽選し、決定する。

14．諸会議
審判研修会・審判会議 8月1日（日）9:00～ ホテル東日本
監督・主将会議 8月1日（日）13:00～ 岩手県民会館中ホール
定例委員会 8月2日（月）16:30～ ホテル東日本

15．その他
その他の問い合わせについては、下記まで行うこと。
〒020－8532 岩手県盛岡市津志田14－37－2
平成11年度全国高等学校総合体育大会
盛岡市実行委員会事務局　ハンドボール競技担当
TEL019－651－4111 FAX019－639－9023

平成11年度全国中学校体育大会
第28回全国中学校ハンドボール大会要項

1．目的；この大会は、中学校教育の一環として中学校生徒に広くハンドボール実践の機会を与え、技能の向上とアマチュアスポーツ精神の高揚をはかり、心身ともに健康な中学校生徒を育成するとともに、中学校生徒の相互の親睦をはかるものである。

2．主催；（財）日本中学校体育連盟 （財）日本ハンドボール協会 長野県教育委員会 長野市教育委員会

3．後援；文部省 全日本中学校長会 都道府県教育長協議会 全国市町村教育委員会連合会 日本中学校生涯体育・スポーツ振興会 長野県 長野市 長野県中学校長会（財）長野県体育協会 NHK 信濃毎日新聞社 信越放送㈱ ㈱長野放送 ㈱テレビ信州 長野朝日放送㈱

4．主管；長野県中学校体育連盟 長野県ハンドボール協会

5．会期；平成11年8月22日（日）～25日（水）
（1）開会式 8月22日（日）16：00～
（2）競 技 8月23日（月）～25日（水）までの3日間
（3）閉会式 8月26日（水）（競技終了後）

6．種別 男子の部、女子の部

7．会場 長野市真島総合スポーツアリーナ（ホワイトリング）
〒381－2204 長野市真島町真島2268－1
TEL・FAX：026－285－6665（大会本部）

8．競技日程；8月23日（月）1回戦・2回戦 18試合
8月24日（火）2回戦・3回戦 14試合
8月25日（水）準決勝・決勝 6試合

9．参加資格：
(1) 選手は都道府県中学校体育連盟加盟の中学校に在籍していること。
(2) 全国9ブロックの大会要項により、選抜された上位のチームであること。
(3) 全国9ブロックの大会要項により、全国大会参加資格を得、該当学校長及び都道府県中学校体育連盟会長が承認した同一中学校で編成されたチームであること。
(4) 1チームの編成は、役員4名以内、選手15名以内とする。
注1）役員とは、学校代表者1名、部長1名、監督1名、コーチ1名とする。学校代表者・部長・監督は該当校の校長・教員であり、コーチは学校長が認めたものでなければならない。また、事前にコーチの確認書を実行委員会に提出しなければならない。注2）選手の登録（申し込み）は15名以内であり、15名が出場できる。
(5) 引率・引率責任者は当該校の校長・教員とする。

10．参加数・ブロック割当数：

	北海道	東 北	関 東	北信越	東 海
男子	1	1	3	2	3
女子	1	1	3	2	3

近 畿	中 国	四 国	九 州	開催地	合 計
3	2	1	3	1	20
3	2	1	3	1	20

11．競技規定：
平成11年度（財）日本ハンドボール協会競技規則による。
(1) 競技時間 25分－10分－25分
①延長戦は、準決勝までは第一延長までとし、その後は7mTCとする。
②決勝戦は正規で行い、決しない場合は7mTCとする。
(2) 使用球
日本ハンドボール協会検定球（手縫いボール2号）とする。
(3) 競技方法 トーナメント方式とし、3位決定戦は行わない。

12．表彰：
(1) 優勝チームに、（財）日本中学校体育連盟トロフィー、（財）日本ハンドボール協会優勝旗、（財）日本ハンドボール協会優勝杯（持ち回り）を授与する。
(2) 優勝以下3位までには、賞状並びにメダルを授与する。

13．組み合わせ：
主催者及び関係者立ち会いによる責任代理抽選とし、決定次第関係都道府県中学校体育連盟、参加チームに連絡する。

14．諸会議：
(1) 審判会議 8月22日（日）10：30～11：30
(2) 審判研修会 8月22日（日）12：30～13：30
(3) 監督主将会議 8月22日（日）14：00～15：00
(4) 競技部会 ①8月21日（土）13：00～16：00
②8月22日（日）9：30～10：00
※審判会議・研修会及び競技部会は、長野市真島総合スポーツアリーナ会議室、監督主将会議は、長野市真島総合スポーツアリーナサブアリーナ。

15．その他：
(1) ユニフォーム番号は、No.1～No.15を使用し、大会申し込みの番号と同一であること。
(2) ユニフォームは、CP、GKともに濃淡のはっきりとした区別できる2着を用意すること。
(3) 出場チームは、必ず引率責任者によって引率されなければならない。また、引率責任者は選手すべての行動に対して責任を負うものとし、選手は中学生としての本分を忘れてはならない。
(4) 申し込み後の選手、氏名変更は所定の用紙に記入の上、監督・主将会議前に大会事務局まで提出すること。
(5) 大会期間中の負傷・疾病については、日本体育・学校健康センター法の定めを適用する（参加者は保険証を持参する）。
(6) 開会式参加にあたっては、ユニフォームを着用すること。
(7) 同一中学校で男女出場チームの同時刻、別コート（会場）での試合は、第1試合（1・2回戦）のみできる限り考慮する。
(8) 参加校は、校名旗または代表旗及び旗竿を持参すること。
(9) 会場使用規定により両面テープのみ使用可とする。松ヤニ及び粘着スプレーの使用は不可とする。

第19回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会実施要項

1．主催；(財)日本ハンドボール協会
2．共催；福島県教育委員会　本宮町　白沢村
3．後援；(財)日本体育協会 (財)福島県体育協会　本宮町教育委員会　白沢村教育委員会 (財)本宮町文化・スポーツ振興事業団　本宮町体育協会　白沢村体育協会
4．主管；福島県ハンドボール協会　本宮町ハンドボール協会
5．期日； 平成11年7月23日(金)～25(日)
6．会場；
本宮町総合体育館
〒969－1101 安達郡本宮町大字高木字黒作1
℡0243－34－2131 FAX0243－34－4575
本宮体育館 ℡0243－34－3939
白沢村総合体育館 ℡0243－44－2350
7．種別； 男子の部・女子の部
8．参加資格； 参加資格は次の各項目をすべて満たすものとする。
①平成11年度(財)日本ハンドボール協会一般A登録されたチームおよび個人。
②JAPAN OPEN HANDBALL TOURNAMENT本大会に出場するチーム及び個人は参加できない。
③各ブロックより選出されたチーム（各ブロック割り当て)。

地区	北海道	東北	関東	北信越	開催地	合計
男子	2	4	6	3	1	16
女子	1	2	3	1	1	8

④全日本実業団連盟・全日本教職員連盟・全日本学生連盟・全国高体連ハンドボール部会に登録されたチーム及び個人は参加できない。
⑤中学生以下の参加は認めない。
9．登録人数；
①大会エントリーは役員6名以内、選手16名以内、計22名以内とする。
②ゲームエントリーも出場も15名まで可とする。
10．表彰；
①第1位から第3位までを表彰する。
②優勝チームには、男女とも（財）日本ハンドボール協会会長杯を授与する。
③男女ともに、本宮町杯トーナメント優勝チームには本宮町長杯を授与する。
11．競技規則； 平成11年度（財）日本ハンドボール協会競技規則による。
12．競技方法； 男女ともトーナメント法による。町長杯も同様。
準決勝戦までは第一延長後7MTC。
決勝戦は正規延長後7MTCを行う。
13．競技時間
①男子 25分－10分－25分
②女子 20分－10分－20分
14．使用球（財)日本ハンドボール協会公認の手縫いボールを使用。
15．組合抽選（財)日本ハンドボール協会及び主管団体で行う。
16．諸会議
①審判会議 7月23日(金)15：00～
本宮町総合体育館会議室
②代表者会議及び開会式 7月23日(金)16：00～
本宮町総合体育館会議室
開会式と代表者会議とを兼ねるので必ず代表者は時間厳守のうえ出席すること。
17．その他
①両面テープのみ使用を認める。松ヤニ及び松ヤニスプレーの使用禁止。
②体育館専用シューズを使用のこと（違反選手は出場停止)。
③チーム名には企業名を使用できません。
④競技中の負傷は応急手当のみ行います。
⑤傷害保険等の加入は各チームで配慮してください。

第19回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会開催要項

1．主催（財)日本ハンドボール協会
2．後援　滋賀県　滋賀県教育委員会
近畿ハンドボール協会　読売新聞社
3．主管　滋賀県ハンドボール協会
4．期日　平成11年7月17日(土)～7月18日(日)
5．会場　滋賀県長浜ドーム
(JR北陸線田村駅下車5分・名神米原インターより約15分)
6．競技規則　平成11年度日本ハンドボール競技規則による。
7．競技方法　予選リーグ・順位決定戦とする（2日目交流試合可能)。
8．参加資格
①平成11年度に日本ハンドボール協会に登録されたチーム。

	東海	近畿	中国	四国	九州	開催地	合計
男子	2	4	2	1	2	1	12
女子	1	2	1	1	2	1	8

②各ブロック予選を突破したチーム。
③1チームは役員4名選手16名以内とする。
9．日程
審判会議 17日(土)12：00
代表者会議・開会式 17日(土)13：00 長浜ドーム会議室
競技開始 17日(土)14：00 長浜ドーム競技場
閉会式 18日(日)全試合終了後、競技会場で実施
10．その他
①競技中の負傷事故は主催者で応急手当をする他は責任を負わない。
②競技場はオムニコートなので、ポイントシューズが望ましい。
③選手は保険証を持参すること。
④練習会場は、大会当日午前9時から競技会場を開放する。

第12回全国小学生ハンドボール大会開催要項

1．趣旨　本大会は、全国の少年少女にハンドボール競技の歓びを経験する機会を広く提供し、競技を通じて少年少女相互の交流と友情を深めるとともに、体力の増強と健全で豊かな心の育成を図ることをねらいとして実施する。

2．主催　（財）日本ハンドボール協会

3．共催　京都府京田辺市

4．主管　京都府ハンドボール協会

5．後援　文部省（財）日本体育協会日本スポーツ少年団　京都府　京都府教育委員会　京都市教育委員会　八幡市　八幡市教育委員会（財）京都府体育協会　京田辺市教育委員会　京田辺市社会体育協会　近畿ハンドボール協会　八幡市ハンドボール協会 NHK京都 KBS京都　京都新聞社　洛南タイムス社　笹川スポーツ財団SSFスポーツエイド事業

6．協賛　オムロン㈱　㈱モルテン　東急観光㈱

7．期間　平成11年7月30日(金)～8月1日(日)

8．会場　京田辺市田辺中央体育館、同志社大学体育館他

9．参加資格

(1)小学生4年生から6年生までの男子及び女子とする。

(2)各都道府県ハンドボール協会またはスポーツ少年団本部の推薦チームで、各都道府県男女1チームとする。ただし開催地については別に定める。

(3)平成11年度スポーツ安全協会スポーツ安全保険に加入していること。

10.　チーム編成

(1)1チームにつき、役員5名以内、選手20名以内とする。役員とは、引率責任者（団長）、監督、コーチ、マネージャーとする。

(2)各チームは、必ず引率責任者によって引率され、大会期間中、選手の全ての行動に責任を負うものとする。

11. 競技及び方法

(1) 1999年度日本ハンドボール協会競技規則に準ずる。競技場は36m × 20mとする。

(2)使用球については、(財)日本ハンドボール協会検定球（小学生1号球モルテンボール）とする。

(3)試合における松ヤニ・粘着スプレー・両面テープ等の使用は禁止する。

(4)試合方法は、予選リーグ及び決勝トーナメント方式とする。（参加チーム数により変更する場合がある）

(5)競技時間は、参加チーム数により後日決定し、各チームに連絡します。

12. 参加料　無料とする。

13. 参加上の注意

(1)参加申込書には、各都道府県協会長の承認印を受けること。

(2)選手の健康診断は必ず各都道府県協会の責任において全選手に実施すること。

(3)参加選手は、健康保険証（コピーでよい）を必ず持参すること。

14. 申し込み方法

(1)提出書類　参加申込書 1部、宿泊申込書 1部

※申込書は男・女別用紙とし、各1部づつ作成すること。

(2)申し込み期日　平成11年6月30日（水）まで

(3)申し込み先・問い合わせ

京田辺市教育委員会社会体育課

〒610-0331 京田辺市田辺丸山19 田辺中央体育館内

TEL (0774) 62 − 1501 FAX (0774) 62 − 1534

15. 組み合わせ抽選

組み合わせ抽選は、主催者で行い後日各チームに連絡します。

16. 表彰

男女各1位～4位まで表彰する。

男女優勝チームの監督を優秀監督として表彰する。

17. 大会日程

審判会議	7月30日（金）8：00～
監督・代表者会議	7月30日（金）8：45～
開会式	7月30日（金）9：30～
閉会式	8月1日（日）
	競技終了後、田辺中央体育館にて行う。

13th HANDBALL GAME
女子世界選手権ビデオ

最新 世界選手権

――厳選した熱戦20試合を全収録

各試合7,000円　税・送料別（送料は何巻でも500円）

1997年11月、ハンドボール発祥の地、ドイツで熱狂の観衆のなか繰り広げられた第13回女子ハンドボール世界選手権。デンマークの優勝で幕となった。アジアの代表として登場した日本はもちろん、韓国、中国も思いっきりの熱いプレーを見せてくれた。

そのうちの熱戦20試合が、スカイ・Aで放映されたが、そのままのクリーンな映像を、編集にあたった株式会社メイスンがハンドボールファンにお届けする。

見た人も見られなかった人も、最新のハンドボール情報を目の当たりにするチャンス。本場の熱狂を肌で感じられるだけでも興奮のビデオだ。1本からでも受け付けている。

■協賛／財団法人日本ハンドボール協会、日本ハンドボールリーグ機構　■制作協力／株式会社スポーツイベント

品番	対戦	解説	時間
◆ 予選リーグ			
WH 1	日本 vs オーストリア	池本 聡氏（ジャスコ監督）	70分
WH 2	中国 vs デンマーク	池本 聡氏（ジャスコ監督）	75分
WH 3	日本 vs ブラジル	平塚一彦氏（シャトレーゼ監督）	70分
WH 4	中国 vs チェコ	平塚一彦氏（シャトレーゼ監督）	75分
WH 5	日本 vs アンゴラ	緒方嗣雄氏（日本協会強化委員）	75分
WH 6	中国 vs ロシア	緒方嗣雄氏（日本協会強化委員）	65分
WH 7	韓国 vs ルーマニア	金原 至氏（立山アルミ監督）	70分
WH 8	日本 vs ポーランド	金原 至氏（立山アルミ監督）	70分
◆ 決勝トーナメント・1回戦			
WH 9	フランス vs ポーランド	矢内 浩氏（大崎電気女子監督）	70分
WH10	韓国 vs チェコ	矢内 浩氏（大崎電気女子監督）	70分
WH11	ルーマニア vs マケドニア	荷川取義浩氏（北國銀行監督）	110分
WH12	ドイツ vs ベラルーシ	荷川取義浩氏（北國銀行監督）	75分
WH13	デンマーク vs ハンガリー	伊藤宏幸氏（全日本女子監督）	75分
WH14	ロシア vs コートジボアール	伊藤宏幸氏（全日本女子監督）	75分
◆ 決勝トーナメント・2回戦			
WH15	ドイツ vs マケドニア	西窪勝広氏（オムロン監督）	70分
WH16	ポーランド vs ロシア	西窪勝広氏（オムロン監督）	70分
◆ 準決勝			
WH17	ドイツ vs ノルウェー	林 五卿氏（イズミ監督）	75分
◆ 5位決定戦			
WH18	韓国 vs クロアチア	林 五卿氏（イズミ監督）	90分
◆ 3位決定戦			
WH19	ドイツ vs ロシア	樫塚正一氏（前全日本女子監督）	75分
◆ 決勝			
WH20	ノルウェー vs デンマーク	樫塚正一氏（前全日本女子監督）	75分
実況アナウンス　池本弘三氏（フリー）			



■支払方法
現金書留、郵便振替、または銀行振込による前払いです。まずはお電話ください。

●お問い合わせ、ご注文は

☎03-3542-2135／Fax 03-3542-2107

MAYSON Co.,LTD.　〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目18番16号　株式会社 メイスン

平成11年度第２回ハンドボール研究集会要項

１．テーマ

「ボール運動教材としてのハンドボール－その２－」

２．趣旨

昨年度発表された小学校新学習指導要領に、ハンドボールが「ボール運動」として初めて採用された。このことは、学校体育において、児童や生徒の体力・運動能力の低下が指摘されている昨今、ハンドボールが、子どもたちの発育・発達を促すのに適していること。加えて、他のボール運動より、教材づくりや戦術学習が容易なこと。さらに、小学1年生から6年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできるという諸特性が認識されたためである。また、小学校期にボールゲームとしてのハンドボールに親しむことは、生涯スポーツへの参加意欲を高めることにもなると考えられる。

本研究集会では、このようなハンドボールの魅力や特性に対して認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったハンドボールの授業づくりについて研修する。

３．主催

（財）日本ハンドボール協会

４．主管

愛知県ハンドボール協会

５．後援

文部省（申請中）　愛知県教育委員会　名古屋市教育委員会

６．対象

小学校および中学校教諭　教員養成大学学生および教官
地域スポーツ指導者等

７．会期

平成11年8月16日（月）・17日（火）

８．会場

名古屋市緑スポーツセンター
〒450－0033 名古屋市緑区相原郷1－2901
TEL（052）891－7775

９．日程

8月16日（月）
受付　　12：00～12：30
開会式　12：30～12：50
講演　　12：50～13：50
　本村清人（文部省体育局体育官（併）教科調査官）
研究発表 14：00～15：10
実技研修 15：30～17：00
交流会　 18：00～20：00

8月17日（火）
授業提案　9：30～11：00
講義　　　11：00～12：00
　高橋健夫（筑波大学体育科学系教授）
閉会式　　12：00～12：15

10．事務局

〒010－8502 秋田市手形学園町1－1
秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座
佐藤　靖　気付
TEL・FAX（018）889－2577
E－mail：yasushi＠ed.akita－u.ac.jp

11．参加申込

葉書かファックス、もしくはメールに、お名前、勤務先、連絡先をご記入の上、事務局までご送付下さい。

1）参加費：4,000円（資料代、および保険料込み）
（当日受付にて徴収いたします）
2）締切り日：平成11年7月19日（日）
3）派遣書が必要な場合は、その旨ご記入下さい。

12．発表申込

研究集会のテーマに関係する研究や実践報告を募集します。発表を希望される方は、上記の要領で、その旨ご記入し、事務局までご送付下さい。なお、発表形式等は以下の通りです。

1）口頭発表・質疑時間：発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき20分です。発表時間は演題数により変更することもあります。

2）発表にはスライド、OHPまたは資料を使うことができます。資料を配布される方は、150部程度ご用意下さい。

3）締切り日：平成11年7月19日（日）

13．宿泊

本研究集会参加者特別料金で下記の「名古屋ホテル旅館協同組合」と契約いたしております。宿泊希望者は直接組合へお申し込み下さい。

その際「本研究集会参加」と必ずお申し出下さい。
TEL（052）932－6311 FAX（052）932－6661
・特別料金　一泊朝食付き 7,000円～7,500円

協　会　だ　よ　り

平成11年5月常務理事会

［日　時］5月15日
［場　所］代々木第2体育館会議室
［出席者］中澤副会長、市原専務理事、常務理事9名、監事2名、事務局2名

会議に先立ち、全日本男子田口監督より、活動方針について報告があった。

1、「がんばれハンドボール10万人会」規約について

「がんばれハンドボール10万人会」規約について、一部修正を確認した。

また、推進本部を設置し、本部長に佐分理事、その他の理事に副本部長を依頼する提案があり、承認した。

2、運営役員登録規程について

運営役員登録規程に関して、理事・参事の意見を問うたところ、異議なしとの回答であったことが報告された。

3、日本協会規程集について

諸規程、並びに委員会規程などについて、各常務理事に検討見直しの依頼がなされた。

4、参事、アドバイザー及び委員会委員の承認について

東海ブロック選出の参事を承認。委員会委員について、提出された各委員を承認した。未提出の委員会については、提出後追認することを承認した。

5、平成11・12年度評議員の承認について

加盟団体より推薦された評議員候補者を承認した。

6、IHF及びコンチネンタルレフェリーコース開催について

予算について検討した。日本リーグより、個人負担金、審判養成費補助の支援がなされ、支出について特別会計補正予算を承認。

7、役員総合研修会について

7月17日、18日開催の役員総合研修会について検討。講師、パネラーについて専務理事に一任。

8、シドニーオリンピックアジア予選・熊本について

大会収支概要の報告がなされ、支出については、詳細にわたり検討するとの報告がなされた。

9、事務局職務規程及び報酬について

土曜日の休日化に伴い、勤務時間の変更について承認。平成11年9月16日より実施。改定に支障を来さぬよう機関誌等で告知することとした。報酬について、提案通り承認。

10、その他

公認会計士より、会計監査の中間報告があったことを報告。

［報告了承事項］

1、競技本部関連事項

(1) ワールドゲームズにおけるビーチハンドボールについて、IHFよりIWGAに女子の参加について要請があったことが報告され、日本協会としては当初の予定通りに実施するよう依頼することとした。
(2) 競技運営委員会より、公認記録用紙の改定、選手登録の改正検討、ビーチハンドボール連盟発起人就任依頼、立会人の任務に関するガイドラインの発送、競技用具の開発検討などについて報告。
(3) 学校体育検討委員会より、第2回学校体育ハンドボール研究集会、「ハンドボール研究第1号」、ハンドボール小学校標準教材品目への導入依頼、教材用ボールなどについて報告。
(4) 指導委員会より、平成11年度スポーツ指導員養成講習会、平成10年度公認コーチ養成講習会修了者、IHFコーチレフェリーシンポジュウム、などについて報告。
(5) NHKテレビスポーツ教室について報告。

2、国際関連事項について

(1) AHF競技規則改定作業部会について報告
(2) シドニーオリンピックアジア予選の熊本実施をAHFに確認。大会要項は18日AHF理事会で承認を得るため送付済みの報告。2001年世界選手権予選をオリンピックアジア予選で兼ねるよう要望したことを報告。

3、強化関連事項

(1) 第12回女子ジュニア世界選手権及び第14回女子世界選手権の組み合わせ、女子ジュニア候補選手を報告。
(2)'99ジャパンカップ・第5回ヒロシマ国際大会の報告。
(3) 日韓スポーツ交流について報告。
(4) 日中韓ジュニア交流について、会場、参加チーム、団長について報告。

4、日本リーグ関連事項

日本リーグ機構組織図、第24回日本リーグ日程を報告。

5、広報委員会より、「選手等取材に関する協力依頼書」について報告。

市原専務理事が、東アジア大会組織委員会理事に就任

当協会専務理事であります市原則之氏は、このたび財団法人第３回ＯＳＡＫＡ東アジア大会組織委員会理事に就任されました。また、実行委員会委員にも就任されております。この、ＯＳＡＫＡ東アジア大会は、実施競技の採用でハンドボールは一時危ぶまれておりました。正式決定するまで２転３転しておりますが、ハンドボールが実施競技に加えられたのは、市原氏がＪＯＣの理事というお立場でご努力されたからに他なりません。

またさらに、大阪オリンピックを見据えてのご活躍が期待されます。

井薫前常務理事（現国際アドバイザー）が日本体育協会理事に就任

井薫前常務理事が、本年度より九州ブロックからの選出で日本体育協会理事に就任されました。国体改革が叫ばれる昨今ですが、ハンドボール競技の発展のため、ご活躍が期待されます。

●７月の行事予定

常務理事会　７月10日　青山メトロ会館

日本リーグ

７月１日(木)　広島／鹿児島

７月３日(土)　東京／愛知／三重／大阪

７月４日(日)　愛知／秋田／福島／富山／島根／佐賀

７月７日(水)　熊本

●求職情報

スウェーデン１部リーグで14年間トレーニング及び指導を行い、現在ヨーロッパ以外の１部クラブチームまたはナショナルチームでの監督の職を探しています。

スウェーデン、ロシア、アイスランド、デンマーク、クロアチアのナショナルチームのトッププレーヤーとの経験をもとに、発展中の国でチャレンジをしてみたいと思っています。

もし監督として興味がおありでしたら、ご連絡ください。

Horia Markel（ドイツ）
（住　所）
Jakob-Riedinger-Str.2
D-97074　Wuerzurg, Germany
（電　話）49－931－882659

●第24回日本リーグ日程訂正のご連絡

１．開催時間変更

■６月26日(土)　広島・中区スポーツセンター
（ジャスコ×日立栃木）12：30→14：00
（ブラザー×イ　ズ　ミ）14：00→15：00

■６月30日(水)　金沢市総合体育館
（北国銀行×ジャスコ）19：00→18：30

■10月９日(土)　広島・佐伯区スポーツセンター
（イ　ズ　ミ×シャトレーゼ）12：00→13：00
（湧永製薬×三陽商会）14：00→15：00

２．開催会場変更

７月４日(土)
変更前：岡崎市体育館
変更後：岡崎市中央総合公園総合体育館

★「ハンドボール研究」1999年第１号購読ご希望の方へ

購読ご希望の方へ

前号でご紹介しました「ハンドボール研究」1999年第１号の購読を希望される方は、下記までお申し込みください。

［申し込み先］日本ハンドボール協会事務局
☎03－3481－2361
［頒布価格］１冊1,000円（送料込み）

HAND BALL CONTENTS JUL

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第三九八号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十一年六月二十六日印刷 平成十一年七月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 市原則之
価格は登録金に含む